隠岐郡知夫村・高津久横穴墓群について(論考篇)

井谷朋子•岩橋孝典•吉松大志•西尾克己

はじめに

第1章 非出雲産玉類からみた高津久横穴墓群

第2章 耳環からみた高津久構穴墓群の特質と出雲地域の金工について

第3章 文字資料からみた古代の知夫里島

第4章 小 結

はじめに

『古代文化研究』第27号において、島根県隠岐郡 知夫村・高津久横穴墓群の遺構・遺物の概要を報告 した。本稿では、高津久横穴墓群の内包する諸事象 のうち、この横穴墓群の特質を反映する幾つかの点 を選択して検討を行った。

本論の構成のうち、第1章は井谷朋子、はじめに・ 第2章は岩橋孝典、第3章は吉松大志、小結は西尾 克己が執筆し、岩橋が編集を行った。なお、註と参 考文献は各章毎に設けている。

第1章 非出雲産玉類からみた高津久横 穴墓群

1. 高津久横穴墓群の築造時期と石製玉類の生産

高津久横穴墓群で玉類が出土したのは、発掘調査を行った14基中4基(1・2・3・10号穴)である。そのうちの2号穴からは31点に及ぶ大量の玉類が出土したことで以前から注目されてきた。特に石製玉類が大部分を占めており、7世紀前葉以降に築造を開始した横穴墓群としては珍しい。なぜなら、7世紀には畿内中枢ではすでに始まっていた石製玉類からガラス製・金属製玉類への移行が、日本列島の大部分で見られるようになっていたからである。6世紀後半には、日本列島で流通する石製玉類の大部分が出雲東部地域の花仙山(松江市)山麓に位置する出雲玉作遺跡群で生産されるようになり、各地の古墳へ次々と副葬された。出雲玉作遺跡群は一大生産地として玉類の大量消費を支えたものの、7世紀中葉までには生産を停止したとされる(米田2009、大

賀2009)。高津久横穴墓群の築造開始はまさしく玉 生産が終わりを告げるか否かの時期であったと言え る。

高津久横穴墓群の出土玉類についてはすでに報告しているが、出雲東部地域以外で生産された可能性が高い玉類については簡単に述べるに留まった(西尾ほか2019)。外来系メノウ製丸玉(2号穴)、半島系碧玉製管玉(10号穴)、滑石製勾玉(3・10号穴)、ヒスイ製勾玉(2号穴)などの玉類は、島根県内に分布する古墳時代後期以降の古墳・横穴墓から出土することは稀である。これらについて類例を紐解きながら、高津久横穴墓群と7世紀における玉類副葬について考えてみたい。

2. 外来系メノウ製丸玉

(1) 高津久2号穴出土メノウ製丸玉の特徴

2号穴から出土したメノウ製丸玉は、直径17.25 mm、高さ15.00mmと丸玉の中ではかなり大型のもので、直径と高さがほぼ同じで球形に近い(第1図1)。孔径の変化は非常に緩やかで、目視ではほぼ真っ直ぐにあけられている印象を受ける。穿孔面の一端は大きく欠損するが、片面穿孔を行った際の割れ円錐のように貫通時の衝撃によって1回で剥離したものではなく、複数の剥離面が認められる。剥離面はそれぞれの面を残した状態で研磨されている(1)。丸玉の表面も研磨されるが、整形時の凹凸や細かなひび割れが残る。

このような特徴は出雲地域で生産された丸玉と大きく異なっている。これらの丸玉は水晶、碧玉、メノウといった石材を問わず、製作技法や法量などは

共通している⁽²⁾。高さに対して直径が大きい扁平な形が主流で、穿孔方法は出雲地域に特有の技法である鉄錐を用いた片面穿孔である(第1図5)。初孔部と終孔部の孔径の差が大きく、終孔部は割れ円錐となることが多い(米田2009)。表面は丁寧に研磨され、凹凸を残すことは少ない。また石材の色調は花仙山産のメノウが褐色味の強い赤色であるのに対し、2号穴のものは不透明でありながらも鮮やかな橙~朱色である。

2号穴から出土したメノウ製丸玉と同じ特徴を持 つものとして、古墳時代後期後半(6世紀後半)以 降、九州北部を中心に数多く出土するメノウ製丸玉 が挙げられる (大賀2009)。一つの古墳から出土す る数量は1~数点程度だが、福岡県内の古墳からは 7世紀中葉までに200点以上が出土している(吉田 ほか2018)。佐賀県や山口県など福岡県の周辺地域 ではいくつかの出土例が認められるのに対し、王権 の中枢であった奈良県からは殆ど出土せず、流通は 狭い範囲に限られている。この時期に朝鮮半島では 同様の丸玉が多く流通しており、さらに早い段階で ある原三国時代(紀元前後~後3世紀)から確認で きるため、このようなメノウ製丸玉を、「半島系」 あるいは「渡来系」「外来系」の語を冠して呼ばれ ている。製作地は未発見であるが、南アジアやロシ ア沿海地方などが想定されている。

(2)流通時期と法量の推移

日本列島内における外来系メノウ製丸玉の出土例を見てみると、古墳時代後期以前にも散見される。確認できる最古の事例は弥生時代後期後半(2世紀後半~3世紀前半)であるが、古墳時代前期(3世紀中頃~4世紀後半)まではほとんど見られず、本格的に流通し始めるのは中期(4世紀末~5世紀)以降である。中期においては九州北部に偏ることはなく、西日本が中心であるものの東は関東地方にまで広がっている。一つの古墳からの出土量は主に1~3点程度であるが、中期後半の奥山大塚古墳(兵庫県)からは228点が出土している。これはかなり突出した量であるが、朝鮮半島では数十点がまとまって出土する事例もあり、奥山大塚例はそれに近い状

況といえる。

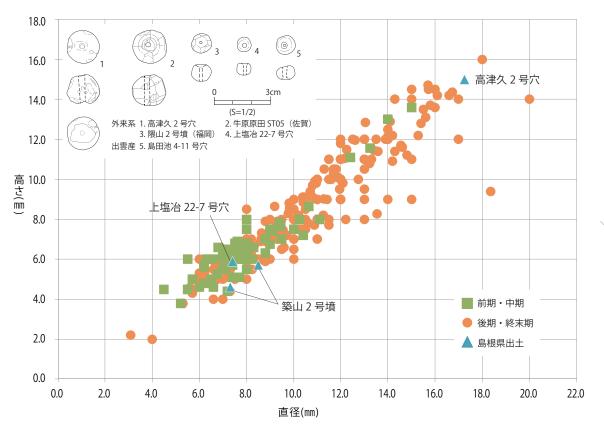
日本列島内で出土した外来系メノウ製丸玉の大きさを時期別に比較してみると、古墳時代前期・中期に出土しているものの大部分は直径5~10mmの間に集中している(第1図)。それに対して、後期・終末期に出土したものは、直径5~18mmの範囲にほぼ万遍なく分布している。もちろん前期・中期にも12mmを超える大型のものがわずかに存在しているが、後期以降の大型化が顕著である。ただし、時代が下るにつれて徐々に大きなものへと変化していくわけではなく、中期以前から存在する小型のものも継続して見られるため、後期以降に一気にサイズの幅が広がったといった方が適切である(3)。

(3)島根県内の出土状況

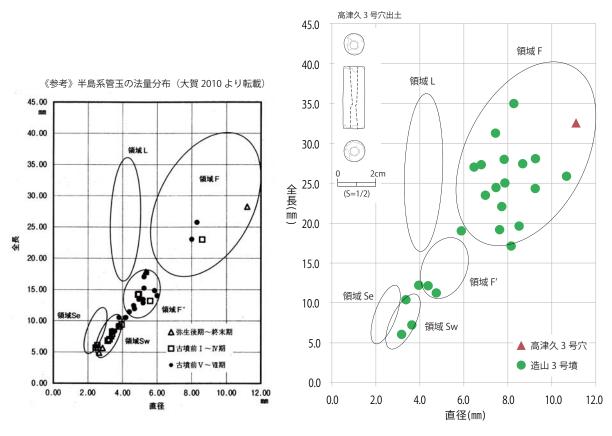
島根県内では高津久 3 号穴以外に 3 点の外来系メノウ製丸玉が確認されている。築山 2 号墳(出雲市)から 2 点、上塩冶22支群 7 号穴(出雲市)から 1 点が出土している(第 1 図 4)。すべて直径 8 mm前後の小型のものである。築山 2 号墳は 6 世紀後半頃の築造で、出雲西部の最高首長墳である上塩冶築山古墳に隣接する築山古墳群に属し、被葬者間に同族的な関係が想定されている。また上塩冶横穴墓群の中でも21・22支群は 7 世紀前半頃の築造で、墓室の精巧さと副葬品の優美さから、築山古墳群を築造した人々の後継集団の墓と想定されている。つまり出雲西部においては、最高首長を輩出した一族のみが外来系メノウ製丸玉を入手することができたといえる(4)。

高津久2号穴の時期は7世紀前葉~後葉で、九州 北部における外来系メノウ製丸玉の流通時期の下限 と一部重なる。高津久横穴墓群の被葬者は、のちの 隠岐国の官人につながる一族と考えられており、出 雲西部地域の事例と併せてみても、外来系メノウ製 丸玉の入手は九州北部の有力者を介して、あるいは 朝鮮半島と直接交渉を行える立場にある者に限られ ていたと考えられる。

これに対して、現時点では出雲東部地域からの出 土は確認できていない。最高首長墳である山代二子 塚古墳(松江市)やそれらを取り巻く古墳はどうか



第1図 外来系メノウ製丸玉法量分布図



第2図 半島系碧玉製管玉法量分布図

というと、副葬品の内容が不明な場合も多く、出雲西部地域ほど出土例は充実していない。岡田山1号墳(松江市)のように金属製玉類を持つものもあるが、副葬品の内容がわかる事例を見ても、そもそも玉類が出土する古墳自体が少なく、出土しても玉類の量は少ない傾向にある。このような状況が、古墳時代後期以降の畿内中枢において、古墳に副葬される玉類が石製から金属製やガラス製へと移行しつつあったこと、つまり石製玉類の使用が衰退しつつあったことと軌を一にする現象であったと考えられる(井谷2016)。外来系メノウ製丸玉についても、畿内の中枢域である奈良県から殆ど出土していないことを考えると、出雲東部地域は九州北部とのつながりよりも、畿内とのつながりが強かったのだろう。

3. その他の非出雲産玉類の出土と玉類の構成

(1) 半島系碧玉製管玉

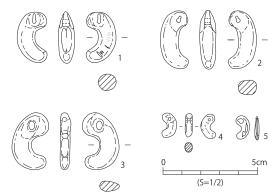
高津久10号穴からは朝鮮半島で生産された可能性 が高い碧玉製管玉(以下、半島系管玉)が出土して いる。科学的分析は行っておらず、目視によって判 断している。大賀克彦氏の研究(大賀2010)を参照 すると、半島系とは未定C群と呼称されるやや青色 味の強い硬質の石材を用い、石錐による両面穿孔が 行われている。最初に確認されるのは縄文時代晩期 後半で、その後一度減少するものの弥生時代後期に 再び増加し、古墳時代前期を中心に流通する。中期 前半には再度激減することから、日本列島へのまと まった流入は古墳時代前期末までに終了したと考え られている。朝鮮半島での出土が多く認められるこ とから、生産地である可能性が高い。流通する管玉 の法量は時期によって多少異なり、古墳時代前期前 半までは直径 2 ~ 4 mmの小型品 (領域Sw⁽⁵⁾。大賀 2010による。以下同じ)を中心とする。その後前期 後半には直径4~6 mmの中型品(領域F') が過半数 を占めるとする。島根県内でも古墳時代前期後半の 造山3号墳(安来市)から出土しているが、直径3 ~ 5 mm前後のものと 7 ~ 9 mm前後に集中する (第 2 図)。造山3号墳では中型品よりも大型品(領域F) が半数以上を占め、全国的な傾向とはやや異なる。

ただし、いずれの時期も量の多少はあるものの大型 品が混在するため、造山 3 号墳についてはこの状況 も理解できる。これに対して、10号穴から出土した ものは直径11.3mm、高さ32.6mmと大型品の中でも上 限に近い。島根県内の後期古墳・横穴墓で、半島系 の可能性がある管玉が出土しているのは10号穴のみ であり、その来歴が問題となる。

ところで半島系管玉の流入はほぼ古墳時代前期末 で終了することから、高津久10号穴のように古墳時 代終末期に出土する場合は「伝世品」であると考え られる。半島系管玉に拘わらず、玉類の中でも生産 時期よりもかなり下った時期に出土する例がしばし ば存在し、そのような現象や遺物を「伝世」や「伝 世品」と呼ぶことがある。筆者はかつて島根県内の 後期・終末期古墳から出土した「伝世品」と考えら れる碧玉製管玉について検討したことがある(井谷 2019)。碧玉製管玉が出土した古墳や横穴墓41基129 点のうち15点が「伝世品」と考えられた。「伝世品」 の内訳は、弥生時代中期を中心に生産された石錐穿 孔による小型品(領域S)や、鉄錐穿孔で花仙山産 碧玉を用いた小型のもの(領域JS)や細長いもの (領域JL) が出土している。領域JSは弥生時代後期 ~古墳時代前期前半、領域JLは古墳時代中期前半 を中心に流通したものである。これらの管玉は6世 紀後半から7世紀を通して確認でき、時期的な偏り は見られない。また地域によって発掘調査の密度が 異なるため地理的な偏りについては判断が難しいが、 空白地域である石見西部を除けば点在している状況 である。「伝世」した碧玉製管玉の分布から、出土 した古墳や横穴墓の関係性を読み取ることは難しく、 高津久10号穴の半島系管玉についても孤立した存在 である。

(2)滑石製勾玉

高津久 3 号穴から 2 点、10号穴から 1 点の計 3 点の滑石製勾玉が出土している(第 3 図)。滑石製としたが、鉱物学的分類を行っていないため、厳密な石材の種類は不明である。ただし蛇紋岩を用いた東海系(大質2008、戸根2008)とは異なる。 3 号穴から出土した 2 点は灰白色の比較的軟質の石材で、孔



1・2. 高津久 3 3. 高津久 10 4. 臼コクリ N-2 5. 諸友大師山 I-2

第3図 滑石製勾玉実測図

の周辺が両面とも大きく窪む。北山峰生氏による分 類のB群にあたると考えられる(北山2007)。B群の 勾玉は「古墳時代中期前半からTK209型式併行期」 まで見られ、「玉作の専業集団が生産したとは考え にくい」と北山氏は指摘する。3号穴の2点は石材 や穿孔方法などは類似するが、平面形は逆C字形で 丸みを帯びたもの(第3図1)とコ字形で胴部が間 延びしたもの(第3図2)というように対照的であ る。後者がコ字形であることから古墳時代後期に作 られたと推測するが、前者についてはわずかに古い 要素も持っていると考える。このことから、2点の 製作は同時期だとしても見本とした勾玉が異なると 推測できる。穿孔方法は特徴的であるものの、平面 形からすると出雲産の勾玉を参考にした可能性が高 く、仕上げの研磨も丁寧であることから、専業工人 の手による可能性も考えられる。 2点とも孔が上方 に拡張されていることから、長期間にわたって紐で 垂下された状態であったと考えられる。

10号穴のものは3号穴のものに比べると硬質で、表面にやや光沢がある。腹部は大きく屈曲し、楕円形の大きな孔が開く(第3図3)。厚さは6m弱と薄い板状を呈し、明確な両面穿孔を行っている。全体的に丁寧に研磨される。素材や形態、穿孔方法が3号穴の2点とは大きく異なり、作られた時期や地域が異なる可能性が高い。

高津久横穴墓群のように、古墳時代後期以降に滑石製勾玉を副葬した事例は、島根県内ではほとんどない。高広IV区3号穴(安来市)から出土した蛇紋

岩製勾玉は孔径変化の明瞭な片面穿孔によるもので、 平面形もコ字形を呈することから、出雲地域の専業 工人によって作られたと推測する。このほか、全長 が15㎜前後の小型品が出土した事例が4例(小汐手 B区 9 号穴、臼コクリN区 2 号穴、島田池 4 区15号 穴、諸友大師山 I 群 2 号穴) ある。いずれの勾玉も 孔の周囲が大きく窪み、穿孔しやすいように厚みを 減じている (第3図 4、5)。このように製作技法 としては共通点を見いだせるが、素材としての滑石 は色調や質感などさまざまである。古墳時代後期に は花仙山山麓でも滑石製玉類を生産しているが、臼 玉が中心である。滑石製で小型の勾玉と言えば中期 の大量副葬を想起させるが、島根県内の中期古墳か らの出土は少なく、それらが「伝世」したとは考え にくい。滑石製勾玉についても高津久横穴墓群の特 異性が顕著である。

(3)小 結

ここまで外来系メノウ製丸玉、半島系管玉、滑石製勾玉といった非出雲産玉類を中心に取り上げた。これ以外にも、ヒスイ製勾玉(2号穴)や花仙山の石材を用いた勾玉でも古墳時代中期に生産されたような古い形態のもの(10号穴)も出土している。ヒスイ製勾玉は畿内中枢では古墳時代前期の副葬が最も多く、中期から後期にかけて減少する。これに対して九州北部の福岡県や佐賀県では、前期の出土数が最も少なく、後期に大幅に増大する(渕ノ上2018)。島根県では古墳時代前期の出土数が最も多いが、中期に減少したのち、後期に再び増加するという点も、九州北部からの影響が見られる。

玉類の構成に注目すると、3号穴と10号穴はメノウ製勾玉、滑石製勾玉、碧玉製管玉、水晶製切子玉・丸玉というようによく似ている。ただ、先に述べたように滑石製勾玉は製作地が異なっている可能性が高く、また碧玉製管玉については、3号穴は花仙山産碧玉を素材としたもののみで構成されるのに対し、10号穴は半島系管玉を含む(6)。それぞれが志向する玉類の構成は同じかもしれないが、全く同じではないという点で、それぞれ個別に玉類を組み合わせて一連に仕立て上げたという印象を持つ。また1号穴

からは勾玉が一切出土しておらず、碧玉製管玉と水 晶製切子玉、紺色のガラス製丸玉という青色系統の 構成である。6世紀に入ると碧玉製管玉とメノウ製 勾玉の生産量が逆転する(河村2009)ことから、基 本的には勾玉を含まずに碧玉製管玉が入るというこ とは稀である(*)。一方でメノウ製勾玉が大量に出土 する2号穴はこの時期の玉類の構成をよく反映して いる。このような状況は一見して大量の玉類が出土 した東北地方北部の末期古墳を彷彿とさせるが、同 様の現象と捉えて良いのだろうか。これについては 次節で検討したい。

4. 7世紀における玉類副葬と高津久横穴墓群

前章まで高津久横穴墓群に含まれる出雲産ではない玉類の検討を通して、高津久横穴墓群出土玉類の特異性について述べてきた。これらを通して、高津久横穴墓群の被葬者の多彩な地域間交流が見えてきた。本章では島根県内の7世紀代に築造された古墳・横穴墓における玉類副葬を概観し、高津久横穴墓群の特質について再度確認してまとめとしたい。

出雲東部地域は花仙山山麓に玉類の一大生産地を 擁していたわけだが、生産遺跡が確実に確認できる のは7世紀前葉までで、その後終息に向かっていっ たと考えられている。出雲地域に限っていえば、6 世紀の段階では被葬者の階層によって副葬される玉 類が異なっていた(井谷2016)。出雲東部地域の中 枢域は金属製玉類などの非出雲産の玉類をもち、安 来地域の構穴墓など地域首長層は出雲産の玉類を豊 富にもつ。あるいは武器や馬具のみで玉類自体を全 くもたないものも存在する。それよりも下位の階層 は出雲産玉類が1~3点程度である。出雲西部地域 については、東部地域のように玉類が皆無とまでは いかないが、上塩冶築山古墳のように出雲産玉類を 豊富にもつ反面、築山2号墳のように非出雲産のみ で構成したものもある。それよりも下位の階層につ いては東部地域と同様である。

7世紀に入ると、以前のように出雲産玉類を豊富 に副葬するものは東西を通じて皆無といってよい。 大部分の墳墓で出雲産玉類が $1 \sim 3$ 点程度となる中 で、中葉以降に築造される上塩冶横穴墓群21・22・23支群は金糸なども交えつつ、ほぼガラス製小玉のみで構成され⁽⁸⁾、畿内中枢の装身形態を反映しているかのようである。

このような状況の中で、石製玉類を豊富に副葬す る高津久横穴墓群は異質な存在である。畿内産土師 器を多く副葬するなど王権との関係は深いといえる が、玉類に関してはその影響をあまり受けていない ようである。前節で石製玉類の大量出土が一見して 東北北部の末期古墳と同様の現象に見えると述べた。 この末期古墳から大量の玉類が出土する背景として、 河村好光氏は王権から供給されたか、あるいは石製 玉類の副葬が衰退しつつあるために滞留していた玉 類を他の物資などとともに、境界領域に位置する在 地首長や交易集団が持ち込んだ可能性を示唆した (河村2009)。「倭」の装身が東北北部に浸透する過 程で、地域内での地位向上を図って末期古墳の被葬 者が自ら玉類を身に付けた、あるいは畿内ではすで に時代遅れの装身であった石製玉類の着装を「夷狄」 の身なりに王権側が仕立て上げた可能性を指摘する。

高津久横穴墓群は石製玉類が多いものの、末期古墳ほどの王権からの強い働きかけは感じられない。支配領域の境界という点からすれば、当然のことながら領域の外側に位置する東北北部と内側に位置する隠岐とでは大きな違いがある。ただ、6~7世紀にかけて緊迫化する朝鮮半島情勢に対応すべく、隠岐が軍事や海上交通の拠点として九州北部と同様に重要視されたことは想像に難くない(9)。そのために高津久横穴墓群の被葬者は王権と九州北部の両方と強いつながりを持っていたと考えられる。さまざまな関わりの中で、玉類に関しては九州北部との関係が強く表れたのだろう。

6世紀後半から徐々に、人々の玉に対する意識が変わりつつあったと考える。出雲産の玉類が後期に入って盛んに材質転換が行われたことも、意識の変化が生み出したものだろう。かつてのように権力の象徴として、一連に仕立て上げられたものが中央の有力者から贈られるのではなく、玉の所有者が直接的あるいは間接的に入手した玉類を自在に組み合わ

せて使用するものへと変化したのではなかろうか。 ただ、高津久横穴墓群でも主体となる石製玉類は出 雲産のものであるから、これらの供給元については 王権なのか、九州北部なのか、あるいは出雲東部の 最高首長なのか、検討の余地がある。石製玉類の生 産が衰退する中で、どのようにそれらが流通していっ たのか。「伝世品」の存在とともに今後の課題とし て提起し、筆をおきたい。

なお、第1・2図の作成に用いた玉類の基本情報 (出土遺跡、玉類の法量、掲載文献等)は、表1・ 2および『古代文化研究』第28号添付CDに搭載し ている。 (井谷朋子)

註

- (1) ただし、これらの剥離が製作時のものか、それ以 降のものなのかは、判断ができなかった。
- (2) 出雲地域の技法で生産されたとみられる丸玉では 水晶製が最も多く、碧玉製、メノウ製は少ない(大 賀2009)。
- (3) 古墳など消費地の状況から見れば、前期・中期からすでに出現していたサイズに加えて新たに大型のものが増えたという印象を受けるが、生産遺跡が見つかっていないため、それらがそのまま生産地の状況を示しているかは不明である。例えば、生産地によってメノウ製丸玉に大小があると仮定するならば、後期以降に新たな生産地が登場した、あるいはすでに生産はされていたがこの時期になって日本列島に搬入されるようになったとも考えられる。いずれにせよ、朝鮮半島など日本列島外の出土例を検討する必要がある。
- (4) 実物資料は現存しないものの、今市大念寺古墳 (出雲市)の出土品を描いた絵図には、赤い丸玉が描 かれている。これが外来系メノウ製丸玉だとすれば、 築山古墳群に先行する時期から出雲西部地域の最高 首長はそれを入手する環境にあったと考えられる。 距離的にやや離れるが、6世紀中頃の上島古墳(出 雲市)からも同じく朝鮮半島からもたらされたと考 えられるメノウ製管玉が出土しており(岩橋2019)、 出雲西部の上位階層で外来系のメノウ製玉類が所有 されていたことがうかがえる。一方で、上塩冶築山

古墳のメノウ製棗玉は明確な片面穿孔が行われていることから出雲東部地域で生産された可能性が高く、 例外的である。

- (5) 半島系管玉について、直径 4 mm以下の小型品を領域Sw、4~6 mm程度の中型品を領域F、6 mm以上の大型品を領域Fと便宜的に区別している(大賀2010)。第2図に載せた大賀氏の法量分布図は、単位資料と呼ばれる製作時のセットを維持していると考えられる素材と法量にまとまりのある一群の全長と直径の平均値を使用して作られている。そのため1点ごとの計測値ではない。これに対して、本稿で提示している外来系メノウ製丸玉や半島系管玉の法量分布図は1点ごとの計測値をプロットしたものである。
- (6) 10号穴から出土した半島系とは異なる管玉(10号-6) は、一般的な花仙山産碧玉と比べてややくすんだ暗緑色を呈する。穿孔は大きく傾き、終孔部側は片面穿孔であるならば孔径が大き過ぎる。そのため破損したものを再加工している可能性がある。以上のとおり、報告編の記載を訂正する。
- (7) 古墳時代後期には、奈良県では金属製玉類は碧玉製管玉やガラス製丸玉と組み合うことが多いのに対し、勾玉はあまり組み合わないとする(菅谷ほか2018)。その影響を受けたためか、割塚古墳(奈良県)のように勾玉を用ず、碧玉製管玉やガラス製丸玉などそれ以外の玉類で構成したものがあり、この時期の最新モードであった可能性が高いと指摘される。ただし、この流行が7世紀中葉以降に築造される高津久1号穴にまで影響を与えたかは疑問が残る。
- (8) 上塩冶23支群7号穴(7世紀前半)からはヒスイ製勾玉とガラス製小玉181点が出土している。このヒスイ製勾玉は、透明感のある緑色を呈し、全長13mm程度の半玦形をなす。このような勾玉は弥生時代中期中葉から後期後半にかけて流通するとされる(大賀2012)。古墳時代後期に副葬されるヒスイ製勾玉は不透明で白色部分が多く、ずんぐりとして重厚感のあるものが一般的である。高津久2号穴から出土したものも後者にあたる。上塩冶23支群7号穴のようなヒスイ製勾玉は、島根県内では古墳時代後期以降、この1点のみで、どこからもたらされたものか疑問

が残る。

(9) 磐井の乱(528年)や白村江の戦い(663年)など6世紀から7世紀にかけての一連の朝鮮半島情勢の緊迫化が挙げられる。隠岐に設置されたミタ、ミヤケについても、王権が朝鮮半島情勢に対応して設置した可能性を指摘する議論がある。それについては坂江2017、吉松2019を参考にした。

参考文献

- 井谷朋子2016「出雲における後期古墳出土玉類からみ た地域性と階層性」『古代文化研究』第24号、島根県 古代文化センター
- 井谷朋子2019「古墳時代後期・終末期における玉類の「伝世」」『古墳時代の玉類の研究』島根県古代文化センター
- 岩橋孝典2019「上島古墳の被葬者」『古墳文化の珠玉』 図録 島根県立古代出雲歴史博物館
- 大賀克彦2008「古墳時代後期における玉作の拡散」『古 代文化研究』第16号、島根県古代文化センター
- 大賀克彦2009「山陰系玉類の基礎的研究」『出雲玉作の 特質に関する研究』島根県古代文化センター・島根 県埋蔵文化財調査センター
- 大賀克彦2010「東大寺山古墳出土玉類の考古学的評価― 半島系管玉の出土を中心に―」『東大寺山古墳の研究』 東大寺山古墳研究会・天理大学・天理大学付属参考 館
- 大賀克彦2012「古墳時代前期における翡翠製丁字頭勾 玉の出現とその歴史的意義」『古墳時代におけるヒス イ勾玉の生産と流通過程に関する研究』高橋浩二編、 富山大学人文学部
- 大賀克彦2013「玉類」『古墳時代の考古学 4 副葬品の 型式と編年』同成社
- 河村好光2009「倭国と出雲の玉」『出雲玉作の特質に関する研究』(前掲)
- 北山峰生2007「北近畿における墳墓出土玉類の検討」 『玉文化』第4号、玉文化研究会
- 坂江渉2017「志深ミヤケの歴史的位置をめぐる基礎的 考察」『ひょうご歴史研究室紀要』第2号、兵庫県立 歴史博物館ひょうご歴史研究室

- 菅谷文則・卜部行弘・鈴木裕明・井上主税・杉山拓己・柳田明進2018「第3章玉飾りの世界 1古墳時代の 玉飾り ◎古墳時代の装いの変遷」『玉-古代を彩る 至宝-』古代歴史文化協議会編、ハーベスト出版
- 戸根比呂子2008「「東海系」の玉の流通」『玉文化』第 5号、玉文化研究会
- 西尾克己・岩橋孝典・井谷朋子「隠岐郡知夫村・高津 久横穴墓群について(報告編)」『古代文化研究』第27 号、島根県古代文化センター
- 渕ノ上隆介2018「第3章玉飾りの世界 3 どこで飾り に仕立てたか ◎玉の石材と地域性」『玉-古代を彩 る至宝-』(前掲)
- 吉田東明・小島篤2018「第4章玉から古代日韓交流を探る 6 三国時代玉類の日本列島における展開 ◎ 赤メノウ製玉類」『玉一古代を彩る至宝一』(前掲)
- 吉松大志2019「隠岐の古墳・横穴墓と部民」『国家形成期の首長権と地域社会構造』島根県古代文化センター 米田克彦2009「穿孔技術から見た出雲玉作の特質と系譜」『出雲玉作の特質に関する研究』(前掲)

謝辞

本稿執筆ならびに資料調査に際し、下記の諸氏・ 諸機関よりご助言・ご配慮を賜りました。記して御 礼申し上げます(敬称略、順不同)。

安部百合子、池淵俊一、上山晶子、大森真依子、 岸野和子、島孝寿、谷澤亜里、野島智実、服部瑞輝、 渕ノ上隆介、林健亮、舟木聡、松尾充晶、柳浦俊一、 吉永壮志、米田克彦

大田市教育委員会、出雲弥生の森博物館、宇美町教育委員会、島根県埋蔵文化財調査センター、島根県立古代出雲歴史博物館、鳥栖市教育委員会、福岡市埋蔵文化財センター、安来市教育委員会

表1 外来系メノウ製丸玉法量分布図(第1図)元データ

番号	遺跡名	時期	計測*1		高さ(皿)	番号	遺跡名	時期	計測*1		高さ(皿)
島根0001	築山遺跡2号墳	後期	0	7.3	4.5	福岡0052	席田大谷2号墳	後期	0	10.9	7.7
島根0002	築山遺跡2号墳	後期	\circ	8.5	5.7	福岡0053	席田大谷2号墳	後期	\circ	11.0	10.0
島根0003	上塩冶第22支群7号横穴墓	終末期	\circ	7.4	5.9	福岡0054	牛頸中通6号墳	後期		14.0	12.1
島根0004	高津久2号横穴墓	終末期	\circ	17.3	15.0	福岡0055	牛頸中通6号墳	後期		13.0	9.5
福岡0001	仙道2号墳	後期	\triangle	8.0	6.0	福岡0056	牛頸中通9号墳	後期	\triangle	7.1	5.1
福岡0002	莵ギ坂2号墳	後期		10.5	7.5	福岡0057	牛頸中通9号墳	後期	\triangle	7.2	5.6
福岡0003	長野1号墳	後期		7.5	5.0	福岡0058	牛頸中通9号墳	後期	Δ	7.3	5.4
福岡0004	古野C6号墳	後期	Δ	7.0	4.0	福岡0059	牛頸中通9号墳	後期	Δ	5.6	4.6
福岡0005	山田1号墳	後期		6.6	4.0	福岡0060	牛頸中通10号墳	後期		15.8	13.7
福岡0006	山田2号墳	後期		9.3	7.2	福岡0061	牛頸中通10号墳	後期		16.1	14.2
福岡0007	山田2号墳	後期		11.3	10.5	福岡0062	城ヶ谷8号墳	後期		12.6	12.0
福岡0008	観音山古墳群平石Ⅲ群Ⅲ-1号墳	後期		12.0	10.0	福岡0063	城ヶ谷19号墳	後期		9.3	7.9
福岡0009	観音山古墳群平石Ⅲ群Ⅲ-1号墳	後期	Δ	9.0	6.0	福岡0064	朝町妙見3号墳	後期	Δ	20.0	14.0
福岡0010	山田沖1号墳	後期		6.5	5.0	福岡0065	城ヶ谷47号墳	後期	Δ	11.0	8.0
福岡0011	金居塚遺跡 I 2号墳	後期		12.3	11.5	福岡0066	大井三倉2号墳	後期		10.0	8.0
福岡0012	金居塚遺跡 I 5号墳	後期		15.0	14.5	福岡0067	武丸皆真庵2号墳	後期		12.0	10.0
福岡0013	金居塚遺跡 I 3号横穴墓	後期		10.5	9.0	福岡0068	唐ヶ坪5号墳	後期		8.8	7.0
福岡0014	金居塚遺跡 I 5号横穴墓	後期		5.8	4.5	福岡0069	楠浦•中里A4号墳	後期		11.9	10.1
福岡0014	金居塚遺跡 I 8号横穴墓	後期		8.3	5.5	福岡0070	福正寺古墳	後期		14.0	12.5
福岡0016	大塚本遺跡下野地2号墳	後期		9.6	6.6	福岡0070	福正寺古墳	後期		14.3	11.4
福岡0010	宝満尾遺跡	後期		9.5	7.7	福岡0071	福正寺古墳	後期		11.5	11.4
福岡0017	宝満尾遺跡	後期		9.1	7.4		福正寺古墳	後期		11.7	10.5
						福岡0073					
福岡0019	広石 I -1号墳	後期	0	13.6	11.4	福岡0074	福正寺古墳	後期		12.1	9.8
福岡0020	広石 I -1号墳	後期	0	13.4	11.5	福岡0075	福正寺古墳	後期		11.0	9.0
福岡0021	吉武塚原5号墳	後期	0	10.5	8.6	福岡0076	福正寺古墳	後期		8.8	6.9
福岡0022	吉武塚原8号墳	後期	0	9.3	7.8	福岡0077	津丸横尾3号墳	後期	\triangle	13.0	11.0
福岡0023	柏原E-1号墳	後期	0	12.2	11.1	福岡0078	津丸横尾3号墳	後期	\triangle	12.0	9.0
福岡0024	柏原E-1号墳	後期	0	10.6	8.6	福岡0079	高原3号墳	後期	Δ	11.5	10.0
福岡0025	柏原E-1号墳	後期	0	6.6	4.9	福岡0080	高原3号墳	後期	Δ	6.0	6.0
福岡0026	柏原E-1号墳	後期	0	8.3	6.7	福岡0081	高原3号墳	後期	Δ	7.8	6.0
福岡0027	柏原E-1号墳	後期	0	11.7	10.3	福岡0082	高原3号墳	後期	Δ	8.8	7.0
福岡0028	柏原E-1号墳	後期	0	8.8	7.9	福岡0083	前田古墳	後期		10.0	8.0
福岡0029	柏原E-1号墳	後期	0	11.3	8.2	福岡0084	前田古墳	後期		11.6	10.0
福岡0030	柏原E-1号墳	後期	0	10.5	8.9	福岡0085	前田古墳	後期		13.9	12.0
福岡0031	柏原E-1号墳	後期	0	9.8	8.6	福岡0086	前田古墳	後期		15.4	12.8
福岡0032	柏原E-1号墳	後期	\circ	9.8	8.3	福岡0087	坂の下5号墳	後期		15.6	13.1
福岡0033	柏原E-1号墳	後期	\circ	9.9	8.7	福岡0088	片縄山丸ノ口V-5号墳	後期	\triangle	9.3	7.9
福岡0034	柏原E-1号墳	後期	\circ	7.9	6.1	福岡0089	片縄山丸ノ口V-5号墳	後期	\triangle	9.0	7.3
福岡0035	柏原E-1号墳	後期	\circ	8.2	6.2	福岡0090	片縄山丸ノ口V-5号墳	後期	\triangle	8.6	6.0
福岡0036	柏原E-1号墳	後期	\circ	8.1	6.1	福岡0091	片縄山丸ノ口V-5号墳	後期	\triangle	8.6	7.3
福岡0037	柏原E-1号墳	後期	\circ	7.3	4.4	福岡0092	岩長浦2号墳	後期	\circ	15.3	12.2
福岡0038	タカバン塚古墳	後期	\circ	14.0	12.2	福岡0093	岩長浦2号墳	後期	\circ	10.7	9.4
福岡0039	山崎第2次C-1号墳	後期		7.0	5.9	福岡0094	観音浦南12号墳	後期	0	16.7	14.4
福岡0040	鋤崎A群16号墳	後期	\triangle	4.0	2.0	福岡0095	観音浦南12号墳	後期	\circ	9.3	7.7
福岡0041	金武古墳群吉武G群4号墳	後期	\triangle	8.0	5.0	福岡0096	観音浦南12号墳	後期	\circ	8.6	7.0
福岡0042	広石南A群4号墳	後期	\circ	13.2	10.8	福岡0097		後期	0	18.4	9.4
福岡0043	広石南A群4号墳	後期	0	10.4	9.1	福岡0098	湯湧2号墳	後期	0	9.6	7.5
福岡0044	桑原石ヶ元8号墳	後期	0	10.5	9.1	福岡0099		後期	Δ	9.3	7.0
福岡0045	元岡·桑原A群10号墳	後期		8.0	6.9	福岡0100		後期	\triangle	9.3	7.5
福岡0046	元岡·桑原G群3号墳	後期		13.0	12.0	福岡0101	上ヶ原8号墳	後期		16.0	13.6
福岡0047	元岡·桑原G群3号墳	後期		12.0	11.0	福岡0102	上ヶ原8号墳	後期		16.6	14.2
福岡0048	元岡·桑原G群3号墳	後期		7.0	6.0	福岡0103	上ヶ原9号墳	後期		10.8	9.1
福岡0049	元岡·桑原G群3号墳	後期		7.0	5.0	福岡0103	上ヶ原9号墳	後期		10.0	9.9
福岡0049	元岡·桑原G群3号墳	後期		6.0	5.0	福岡0104		後期		11.0	8.0
		後期									
福岡0051	席田大谷2号墳	1友州	0	10.4	8.9	福岡0106	隈山2号墳	後期		6.0	5.0

^{*1…○}実物計測、△実測図計測、□報告書計測値。

番号	遺跡名	時期	計測*1	直径(㎜)	高さ(皿)	番号	遺跡名	時期	計測*1	直径(㎜)	高さ(皿)
福岡0107	隈山2号墳	後期		9.5	8.0	福岡0164	観音浦南17号墳	終末期	0	7.1	5.5
福岡0108	隈山2号墳	後期		10.0	6.5	福岡0165	観音浦南17号墳	終末期	0	7.1	5.6
福岡0109	隈山2号墳	後期		12.0	9.0	福岡0166	観音浦南17号墳	終末期	0	6.9	6.6
福岡0110	隈山2号墳	後期		11.0	9.0	福岡0167	観音浦南17号墳	終末期	0	6.4	5.0
福岡0111	隈山2号墳	後期		11.0	8.0	福岡0168	観音浦南17号墳	終末期	0	6.8	5.0
福岡0112	隈山2号墳	後期		11.0	7.0	福岡0169	観音浦南17号墳	終末期	0	6.2	5.4
福岡0113	隈山2号墳	後期		11.0	10.0	福岡0170	水町A4-Ⅱ号横穴墓	終末期		10.0	8.0
福岡0114	隈山2号墳	後期		11.0	10.0	福岡0171	八旗神社2号墳	終末期		14.6	11.6
福岡0115	隈山2号墳	後期		12.0	12.0	福岡0172	大畠遺跡4号墳	終末期		9.5	6.5
福岡0116	隈山2号墳	後期		13.0	10.5	福岡0173	大畠遺跡4号墳	終末期		13.0	8.0
福岡0117	隈山2号墳	後期		14.0	9.0	福岡0174	大畠遺跡4号墳	終末期		13.5	12.0
福岡0118	隈山2号墳	後期		13.0	11.0	福岡0175	天園遺跡2号墳	終末期		6.6	5.5
福岡0119	隈山2号墳	後期		15.0	9.0	福岡0176	渡筑紫1号墳	終末期		16.0	14.5
福岡0120	津古生掛1号横穴墓	後期	Δ	15.5	13.5	福岡0177	渡筑紫1号墳	終末期		13.0	11.0
福岡0121	津古生掛1号横穴墓	後期	Δ	17.0	12.0	福岡0178	柿原F-13号墳	終末期		8.7	7.1
福岡0122	三沢17号墳	後期		9.4	7.4	福岡0179	損ヶ熊3号墳	終末期	Δ	10.0	9.0
福岡0123	三春大碇18号墳	後期		10.8	9.7	佐賀0001	香田遺跡ST016	後期~終末期		11.5	11.0
福岡0124	釈迦堂1号墳	後期		9.0	7.5	佐賀0002	香田遺跡ST016	後期~終末期		12.0	11.0
福岡0125	乗場古墳	後期	Δ	6.7	5.7	佐賀0003	小清兵衛山古墳	後期	Δ	13.5	8.3
福岡0126	宮ヶ浦3号墳	後期		15.0	14.0	佐賀0004	小清兵衛山古墳	後期	Δ	11.3	9.0
福岡0127	宮ヶ浦3号墳	後期		11.8	10.5	佐賀0005	礫石A遺跡ST05	終末期	Δ	15.0	11.0
福岡0127	宮ヶ浦3号墳	後期		13.3	11.0	佐賀0006	礫石A遺跡ST05	終末期	Δ	12.0	11.0
福岡0120	宮ヶ浦3号墳	後期		14.1	12.9	佐賀0007	小城炭坑跡古墳	後期~終末期		7.3	5.5
福岡0129	宮ヶ浦3号墳	後期		15.7	14.7	佐賀0008	小城炭坑跡古墳	後期~終末期		6.0	5.3
福岡0130	宮ヶ浦3号墳	後期		12.0	11.0	佐賀0009	小城炭坑跡古墳	後期~終末期		5.3	3.8
福岡0131	東山4号墳	後期		14.0	12.0	佐賀0010	牛原原田遺跡ST05	後期	Δ	18.0	16.0
福岡0132	上長延9号墳	後期		8.5	6.0	佐賀0010 佐賀0011	牛原原田遺跡ST05	後期	Δ	12.0	9.0
福岡0133		後期		10.6	7.8	佐賀0011	牛原原田遺跡ST05	後期	Δ	10.0	7.0
福岡0134	川島11号墳(川島古墳) 平原古墳	後期		8.0	8.5	佐賀0012 佐賀0013	平原原田遺跡5105 深底1号墳	後期~終末期		14.0	12.0
		後期		12.5	12.0	佐賀0013 佐賀0014				12.0	10.0
福岡0136	新行坊古墳 新行坊古墳	後期					深底1号墳	後期~終末期			
福岡0137		後期		10.5 8.2	8.5	佐賀0015	深底1号墳	後期~終末期		8.0	7.0
福岡0138	新行坊古墳				7.0	佐賀0016	深底1号墳	後期~終末期		9.0	7.0
福岡0139	宇野台2号墳 土佐井1号墳	後期 後期		3.1	2.2	佐賀0017	深底2号墳	後期~終末期		12.0	10.0
福岡0140	土佐井1号墳	後期		10.5	8.0	佐賀0018	深底2号墳	後期~終末期		12.0	9.0
	土佐井1号墳	後期		12.0	9.5 10.9	佐賀0019	深底2号墳	後期~終末期		12.0 13.0	10.0
				14.2		佐賀0020		後期~終末期			11.0
福岡0143	土佐井1号墳	後期		14.6	11.7	佐賀0021	深底2号墳	後期~終末期		11.0	9.0
福岡0144	下唐原甚吾久保1号墳	後期		8.0	7.0	佐賀0022	深底2号墳	後期~終末期		13.0	9.0
福岡0145	百留17号横穴墓	後期		11.5	7.7	佐賀0023	深底2号墳	後期~終末期		10.0	6.0
福岡0146	百留21号横穴墓	後期		8.8	5.9	佐賀0024	都谷遺跡ST014	後期	\triangle	13.0	12.0
福岡0147	百留22号横穴墓	後期		10.3	7.5	佐賀0025	都谷遺跡ST014	後期	\triangle	12.8	10.0
福岡0148	百留24号横穴墓	後期		6.7	5.0	佐賀0026	都谷遺跡ST014	後期	Δ	10.0	8.5
福岡0149	百留25号横穴墓	後期		10.3	7.5	佐賀0027	神山古墳	後期~終末期		12.0	9.0
福岡0150	百留40号横穴墓	後期		8.6	6.9	佐賀0028	永田古墳群ST104	/// Heri		11.0	7.0
福岡0151	百留43号横穴墓	後期		9.7	7.2	佐賀0029	永田古墳群ST108	後期		9.8	8.8
福岡0152	百留横穴墓群	後期		5.7	4.3	佐賀0030	永田古墳群ST202	後期		14.8	11.2
福岡0153	大久保楢迫4号墳	後期		14.0	12.0	佐賀0031	永田古墳群ST202	後期		14.2	12.2
福岡0154	小池7号横穴墓	後期~終末期	\triangle	17.0	14.0	佐賀0032	永田古墳群ST202	後期		12.2	8.0
福岡0155	西ノ浦上14号横穴墓	後期~終末期	Δ	9.0	8.0	佐賀0033	永田古墳群ST202	後期		12.0	11.8
福岡0156	岩長浦1号墳	終末期	0	13.1	12.9	佐賀0034	永田古墳群ST202	後期		10.2	8.2
福岡0157	岩長浦1号墳	終末期	0	11.4	9.0	佐賀0035	永田古墳群ST303	後期		9.6	7.2
福岡0158	観音浦南17号墳	終末期	0	15.7	14.5	佐賀0036	永田古墳群ST404	後期~終末期		7.2	6.0
福岡0159	観音浦南17号墳	終末期	\circ	11.0	9.8	佐賀0037	東十郎古墳群4区4号墳		\triangle	10.0	9.1
福岡0160	観音浦南17号墳	終末期	\circ	8.8	7.0	佐賀0038	東福寺古墳群ST002	後期	\triangle	8.0	6.0
福岡0161	観音浦南17号墳	終末期	0	9.2	8.7	佐賀0039	東福寺古墳群ST013	終末期	\triangle	11.5	8.0
福岡0162	観音浦南17号墳	終末期	\circ	8.0	5.9	佐賀0040	東福寺古墳群ST013	終末期	\triangle	10.0	7.0
福岡0163	観音浦南17号墳	終末期		7.9	6.5	佐賀0041	東福寺古墳群ST014	後期~終末期		14.3	14.0

 番号	遺跡名	時期	計測*1	直径(㎜)	高さ(皿)
福岡001	三雲南小路4号甕棺墓	前期		12.4	11.1
福岡002	三雲南小路4号甕棺墓	前期		13.3	11.6
千葉001	草刈1号墳第1主体部	中期		8.0	6.5
千葉002	草刈1号墳第1主体部	中期		7.5	6.8
千葉003	草刈1号墳第1主体部	中期		7.4	6.0
千葉004	草刈1号墳第1主体部	中期		7.3	6.0
千葉005	草刈1号墳第1主体部	中期		7.7	6.6
千葉006	草刈1号墳第1主体部	中期		8.0	6.4
千葉007	草刈1号墳第1主体部	中期		7.8	6.0
千葉008	草刈1号墳第1主体部	中期		7.9	6.0
千葉009	草刈1号墳第1主体部	中期		8.0	6.8
千葉010	草刈1号墳第1主体部	中期		7.9	6.0
千葉011	草刈1号墳第1主体部	中期		7.6	6.6
千葉012	草刈1号墳第1主体部	中期		7.3	6.5
千葉013	草刈1号墳第1主体部	中期		6.2	5.7
千葉014	草刈1号墳第1主体部	中期		7.2	6.4
千葉015	草刈1号墳第1主体部	中期		7.1	5.6
千葉016	草刈1号墳第1主体部	中期		6.8	6.6
千葉017	草刈1号墳第1主体部	中期		7.4	6.2
千葉018	草刈1号墳第1主体部	中期		7.4	5.7
千葉019	草刈1号墳第1主体部	中期		7.3	6.0
千葉020	草刈1号墳第1主体部	中期		7.4	5.1
千葉020	草刈1号墳第1主体部	中期		7.7	5.1
千葉021	草刈1号墳第1主体部	中期		8.8	6.3
千葉023	草刈1号墳第1主体部	中期		7.6	6.9
千葉023	草刈1号墳第1主体部	中期		6.2	5.6
千葉025	草刈1号墳第1主体部	中期		8.3	6.6
千葉026	草刈1号墳第1主体部	中期		7.0	6.1
千葉027	草刈1号墳第1主体部	中期		7.2	4.4
千葉028	草刈1号墳第1主体部	中期		8.0	6.4
千葉029	草刈1号墳第1主体部	中期		7.6	6.4
千葉030	猫作•栗山16号墳				
千葉031	猫作・栗山16号墳	中期	_	5.2	3.8
		中期		5.5	4.5
東京001	野毛大塚古墳第1主体部	中期		10.4	7.2
石川001	下開発茶臼山9号墳第1主体部	中期		9.5	7.0
石川002	下開発茶臼山9号墳第1主体部	中期		8.8	7.0
岐阜001		中期		8.0	8.0
奈良001		中期		9.0	7.5
奈良002	赤尾熊ヶ谷3号墳	中期		10.0	7.5
奈良003	赤尾熊ヶ谷3号墳	中期		6.8	5.3
奈良004	赤尾熊ヶ谷3号墳	中期		9.0	6.8
奈良005	赤尾熊ヶ谷3号墳	中期		7.3	6.3
奈良006	赤尾熊ヶ谷3号墳	中期		8.0	5.5
奈良007	赤尾熊ヶ谷3号墳	中期		7.0	6.5
奈良008	赤尾熊ヶ谷3号墳	中期		7.0	6.3
鳥取001	屋喜山9号墳	中期		5.5	6.0
鳥取002	長瀬高浜77号墳第1主体部	中期		6.0	4.6
広島001	須賀谷2号墳第1主体部	中期		6.3	6.0
広島002	須賀谷2号墳第1主体部	中期		6.6	4.6
広島003	須賀谷2号墳第1主体部	中期		4.5	4.5
広島004	須賀谷2号墳第1主体部	中期		5.5	4.5
広島005	須賀谷2号墳第1主体部	中期		5.7	5.0
福岡003	菩提寺古寺2号墳	中期		6.5	5.0
福岡004	菩提寺古寺2号墳	中期		8.0	7.5
福岡005	花見3号墳	中期	\triangle	8.3	6.0
福岡006	花見3号墳	中期	\triangle	7.0	5.5
福岡007	尾崎・天神1号墳	中期		6.6	6.0

番号	遺跡名	時期	計測*1	直径(㎜)	高さ(皿)
福岡008	尾崎・天神1号墳	中期		7.5	6.0
福岡009	尾崎・天神1号墳	中期		6.2	4.8
福岡010	尾崎・天神1号墳	中期		15.0	13.6
福岡011	尾崎・天神1号墳	中期		11.1	8.0
福岡012	小正西古墳2号石室	中期		14.0	13.0
福岡013	御陵1号墳	中期	\triangle	8.5	6.0
福岡014	御陵1号墳	中期	\triangle	8.0	6.0
福岡015	番塚古墳	中期		13.3	12.1
福岡016	番塚古墳	中期		8.1	6.1
福岡017	神領5号墳	中期	\circ	10.3	8.0
福岡018	神領5号墳	中期	\circ	9.4	7.9
福岡019	神領5号墳	中期	\circ	10.7	8.7

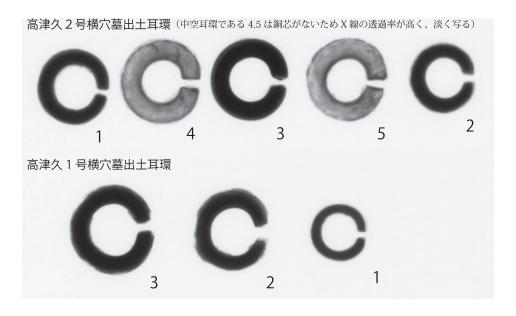
資料の集成には古代歴史文化協議会HP(http://kodairekibunkyo.jp/)の遺跡データベースを利用した。

表2 半島系碧玉製管玉法量分布図(第2図)元データ

所在地	遺跡名	時期	計測*1	直径(mm)	高さ(m)*2
知夫村	高津久10号横穴墓	終末期	0	11.3	32.6
安来市	造山3号墳	前期後半	\circ	6.1	19.1
安来市	造山3号墳	前期後半	\circ	7.2	23.6
安来市	造山3号墳	前期後半	\circ	7.7	24.5
安来市	造山3号墳	前期後半	\circ	8.1	25.0
安来市	造山3号墳	前期後半	\circ	7.0	27.4
安来市	造山3号墳	前期後半	\circ	8.1	28.0
安来市	造山3号墳	前期後半	\circ	6.7	27.0
安来市	造山3号墳	前期後半	\circ	8.5	35.0
安来市	造山3号墳	前期後半	\circ	7.7	31.3
安来市	造山3号墳	前期後半	\circ	8.0	22.1
安来市	造山3号墳	前期後半	\circ	8.4	17.2
安来市	造山3号墳	前期後半	\circ	7.9	19.2
安来市	造山3号墳	前期後半	\circ	9.5	24.3
安来市	造山3号墳	前期後半	\circ	10.9	25.9
安来市	造山3号墳	前期後半	\circ	9.5	28.1
安来市	造山3号墳	前期後半	\circ	8.9	27.4
安来市	造山3号墳	前期後半	\circ	8.7	19.7
安来市	造山3号墳	前期後半	\circ	7.1	(18.4)
安来市	造山3号墳	前期後半	\circ	3.9	7.3
安来市	造山3号墳	前期後半	\circ	4.2	12.2
安来市	造山3号墳	前期後半	\circ	5.0	11.3
安来市	造山3号墳	前期後半	\circ	4.6	12.2
安来市	造山3号墳	前期後半	\circ	3.6	10.4
安来市	造山3号墳	前期後半	\circ	3.4	6.1
安来市	造山3号墳	前期後半	0	3.3	(5.7)
*1…○実物	計測、△実測図計測、	□報告書計測値。			

^{*1…○}実物計測、△実測図計測、□報告書計測值。

^{*2…()}は残存長。試料18・30は破損品のため第2図の分布図にはプロットしていない。



第4図 高津久1号・2号横穴墓出土耳環のX線透過写真(実寸大)

第2章 耳環からみた高津久横穴墓群の 特質と出雲地域の金工について

1. はじめに

高津久横穴墓群からは、1号横穴墓から3点、2 号横穴墓から5点、3号横穴墓から7点、9号横穴 墓から1点の耳環が出土している。そのうち、2号 横穴墓から出土している2点が中空耳環であった。

この 2 点については、他の耳環より重量が軽いため、中空耳環である可能性が想定されていたが、古代出雲歴史博物館にてX線透過撮影を実施したところ中空構造であることが確認された(西尾・岩橋・井谷2019)(第 4 図)。⁽¹⁾

耳環は、考古資料の中でも出土数量が多く、また 全国各地に存在する。その一方で、単純な形態や時間経過による型式変遷の乏しさから考古学的研究ア プローチは思いのほか少なく、むしろ分析科学から の調査研究によって材質論や製作技術論の研究が先 行している。⁽²⁾

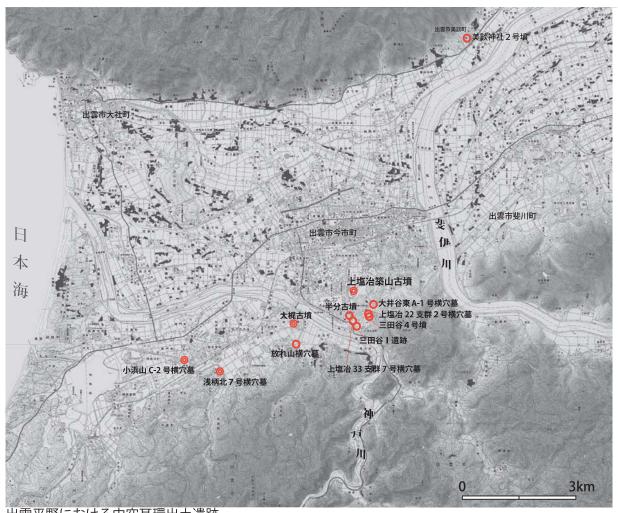
その中で中空耳環については、耳環全体の中で少数派であり、稀少性を持つことから、考古学・分析科学の両面から先行研究がある特異な存在でもある(小池1987)。

このたび中空耳環を含む高津久横穴墓出土耳環の 特質を検討するため、島根県内の耳環を悉皆的に集 成した。本論では、耳環の寸法と中空耳環の地理的 分布状況から高津久横穴墓出土品の位置づけを図る と共に、中空耳環の偏在状況から出雲西部地域内の 金工工人の在り方について検討を行う。

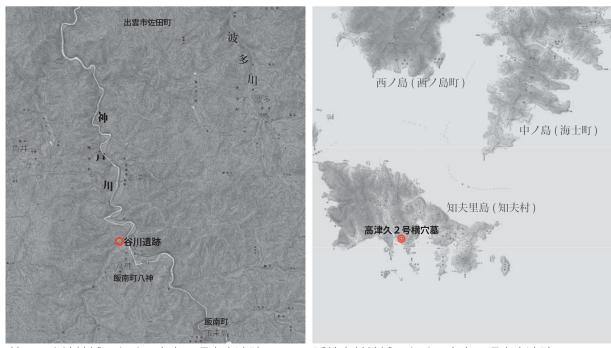
2. 島根県内の古墳時代耳環について

島根県内の古墳時代耳環については、まとまった 専論がないが、鈴・鉛環などの特殊環については上 山晶子氏が集成のうえ言及している(上山2106)。 また、村上隆氏が安来市・大原遺跡1号横穴墓出土 耳環について科学分析を行い、水銀アマルガム技法 による鍍金を証明している(村上1994)。

このように、島根県内の耳環研究の状況は全国的な傾向と変わるところなく盛んであるは言いがたい。島根県内で出土している古墳時代の耳環全体の数量、空間的分布の粗密などを作業前提として知る必要があるため悉皆的な集成作業を実施した。その結果は第3表、第5、6図に示すとおりである。島根県内では、700点以上の耳環が出土しているが、6世紀前半期以前のものはほとんど知られておらず、6世紀中葉の上島古墳(出雲市)出土の銀環、薄井原古墳(松江市)出土の金環などが古い時期の例である。



出雲平野における中空耳環出土遺跡



神戸川上流地域における中空耳環出土遺跡

隠岐島前地域における中空耳環出土遺跡

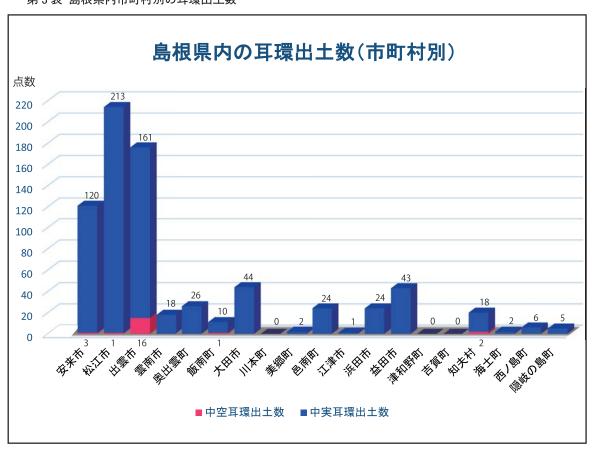
凡例…◎耳環2点 ○耳環1点

第5図 島根県内における中空耳環出土遺跡1



第6図 島根県内における中空耳環出土遺跡2

第3表 島根県内市町村別の耳環出土数



第4表-1 中空耳環出土遺跡一覧 (2020年3月時点未成) 遺跡名欄のアミ掛けは首長墳以上と考えられるもの

			月時点未成)遺跡名欄のアミ掛			Ladeb
所在地 宮城県多賀城市	遺跡名 東北歴史博物館杉山コレクション	点数	番号、寸法など 10E23148(径3.5×3.5cm)	7世紀?	古墳の特徴 出土地不明。	文献 宮城県①
福島県いわき市	中田1号横穴墓	1	10E25146 (柱5.5 \ 5.5 cm)	6世紀後葉	新興首長墓。装飾横穴墓。	福島県①
茨城県つくば市	中台遺跡21号墳	1	340図-33(径3.2×3.0cm)	7世紀初頭	直径15.0mの円墳。全長4.7mの無 袖式横穴式石室。	茨城県①
茨城県かすみがうら市	風返稲荷山古墳	2	37図-48.49 (48は径3.5×3.4cm、49は径 3.75×3.6cm。共に内部に丸が入る)	7世紀初頭~前葉	全長78mの前方後円墳。全長9.12 mの横穴式石室。	茨城県②
茨城県那珂郡東海村	二本松古墳	2	24図-7.10 (7は径3.5×3.2cm、重さ8.5g。 10は径3.4×3.2cm、重さ8.5g)	7世紀初頭~前葉	直径29mの円墳。全長約9mの無 袖式横穴式石室。	茨城県③
徳川頼貞氏寄贈(昭和2年)	茨城県内	1	10476 (径4.5×4.2cm)	不明		茨城県④
栃木県塩谷郡高根沢町	上の台古墳	1	10図-1 (径3.2cm)	7世紀前葉	直径33mの円墳。全長5.6mの片 袖式横穴式石室。	栃木県①
栃木県那須郡那珂川町	川崎古墳	1	7図-35(径2.4cm、重さ5.55g)	7世紀初頭	全長49mの前方後円墳。全長9.6 m以上の横穴式石室。	栃木県②
栃木県芳賀郡市貝町	刈生田古墳	1	第11図-1(径1.7×1.6cm)	7世紀初頭	直径50×30mの円墳。全長4.4m の横穴式石室。双龍環頭大刀。	栃木県3
群馬県伊勢崎市	赤堀村248号墳	2	金銅製中空耳環	7世紀前葉	直径18.6mの円墳。横穴式石室。	群馬県①
群馬県前橋市	亀泉坂上遺跡1号墳	2	122図-6.7 (6は径2.5×2.3cm、7は径2.3×2.05cm)	7世紀前葉	直径20mの円墳。全長6.2mの両 袖式横穴式石室。	群馬県②
群馬県前橋市	東博所蔵(笂井町出土)	1	径2.2×2.4cm	6世紀末~7世紀初頭	昭和2年発見。	群馬県③
群馬県高崎市	綿貫観音山古墳	2	21図-10.11(中空純銀製 10は径3.57× 3.23cm。11は径3.52×3.19cm)	6世紀後葉	前方後円墳、二重周濠、墳長97m。 全長12.65mの両袖式横穴式石室。 上毛野氏か。	群馬県④
群馬県高崎市	観音塚古墳	2		6世紀末~7世紀初頭	墳長97mの前方後円墳、全長15.3 mの両袖式横穴式石室。上毛野氏 か。	群馬県⑤
群馬県高崎市	前山古墳	1	148図-1(径2cm、破損)	6世紀末~7世紀初頭	〜 全長47m以上の前方後円墳。全長 5.57m以上の両袖式横穴式石室。	群馬県⑥
群馬県高崎市	奥原古墳群9号墳	2	26図-0917. 0918 (0917は径3.0×2.25cm、重さ7.36g。0918は径2.95×2.87cm、重さ	7世紀初頭	直径9.5mの円墳。全長4.76mの両袖式横穴式石室。	群馬県⑦
群馬県高崎市	奥原古墳群15号墳	1	5.96g) 49図-1569(径2.98×2.9cm、重さ4.06g)	7世紀初頭	直径10mの円墳。全長5.4mの両	群馬県⑦
群馬県高崎市	東博所蔵(江木町稲荷廻783出土)	1	23202 (径3.3×3.1cm)	6世紀末~7世紀初頭	袖式横穴式石室。圭頭大刀。	群馬県3
群馬県高崎市	東博所蔵(五霊神社古墳出土)	2	20433 (径4.0×3.7cm)	6世紀末	全長50mの前方後円墳。昭和3年	群馬県3
					に横穴式石室が開口。	
群馬県高崎市 群馬県高崎市	東博所蔵(上豊岡台地蔵堂出土) 東博所蔵(倉賀野町大応寺甲出土)	2	14156.14157 (径2.6×2.3cm、径2.6×2.5cm) 21735 (径2.8×2cm)	6世紀末	明治39年発見。 昭和6年発見。	群馬県3
群馬県高崎市	東博所蔵(剣崎町大塚出土)	1	5420 (1/3程度残存)	6世紀末	明治41年発見。直径22mの円墳	群馬県3
群馬県高崎市	東博所蔵(佐野村出土)	1	4825(1/3程度残存)	6世紀末	明治42年以前に発見	群馬県3
群馬県藤岡市	東博所蔵(白石二子山古墳)	2	353.386 (386は径3.2×3.0cm)	6世紀末~7世紀初頭	墳長66mの前方後円墳。玄室長8.8 m以上の両袖式横穴式石室。明治 13年以前に開口	群馬県3
群馬県北群馬郡榛東村	金井54号墳	1	47図-3(径2.85×2.7cm、重さ7.3g)	7世紀初頭~7世紀中葉	直径20mの円墳。全長7mの両袖 式横穴式石室	群馬県⑧
埼玉県熊谷市	飯塚10号墳	3	343図-239 (径1.7×1.6cm、1.9g)、243 (径3.3×3.1cm、5.9g)、244 (径3.0×2.9 cm、4.4g)		直径14.7mの円墳。玄室は全長2.54 mが残存	埼玉県①
埼玉県鴻巣市	氷川神社境内(愛宕塚古墳)	1	6142 (径3.4×3.0cm)	6世紀末~7世紀初頭	墳形・規模不明。	埼玉県②
埼玉健行田市	小見真観寺古墳	2	350.351 (径3.4×3.2cm、径3.4×3.3cm)	6世紀末~7世紀初頭	墳長102mの前方後円墳。後円部とくびれ部に横穴式石室。金環は	埼玉県②
出土地不明(東京都八王子市)	井上郷太朗コレクション	1	25図-169-1(径3.4×3.2cm、重さ16.15g)	不明	くびれ部の石室出土。武蔵国造か。	東京都①
千葉県富津市	三条塚古墳	1	7図-1(径3.35×3.1cm、重さ10.3g)	6世紀末	墳長122mの前方後円墳、二重周 濠。全長8.5m以上の横穴式石室。 須恵国造か。	
千葉県香取市	城山 1 号墳		銀製	6世紀後葉	前方後円墳、墳長68m。全長6.5 mの片袖式横穴式石室。下海上国 造か。	
千葉県木更津市	上総金鈴塚古墳	4	48図-1.2.3.4(1.2は径3.5cm、3.4は径3.5cm)	6世紀末	墳長100mの前方後円墳で二重周 濠。全長9.6mの無袖式横穴式石 室。馬来田国造か。	千葉県③
千葉県船橋市 石川県輪島市	印内台第1号横穴墓 稲舟横穴古墳群8号墳	2	径2.0cm	6世紀末~7世紀前葉	2 1 9 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉県④ 石川県①
石川県加賀市	法皇山65号横穴墓	2	112図-1 (径3.2cm) .112-2 (径3.4cm)	6世紀末	奥行き3.5m。	石川県②
福井県大飯郡おおい町	大飯神社 4 号墳	1	108図-1(径3.25cm、重さ10.0g)	7世紀前葉	群集墳。径11×8mの楕円墳。全 長7.4mの無袖式横穴式石室。	福井県①
山梨県笛吹市	大蔵経寺山15号墳	1	径3.05×2.95cm	6世紀末~7世紀初頭	直径12mの円墳。全長6.2mの無 袖式横穴式石室。	山梨県①
山梨県甲府市	稲荷塚1号墳	1	19図-20(径3.0cm)	6世紀後葉~7世紀中葉	直径20mの円墳。全長8mの横穴 式石室。	山梨県②
長野県長野市	長原 5 号墳	1	記述のみ、推定径2.0cm	6世紀末~7世紀前葉	径12×7mほどの積石塚。全長4.1 mの横穴式石室。	長野県①
長野県長野市	大室25号墳	1	51図-1(径3.13×2.95cm、重さ6.7g)	6世紀後葉~7世紀前葉	群集墳。直径12mの積石塚円墳。 全長6.05mの無袖式横穴式石室。	長野県②
長野県長野市	大室436号墳		径2.8×2.8cm	7世紀	無袖式橫穴式石室。	長野県③
長野県長野市	湯谷古墳群			7冊幻前華		長野県④ 長野県⑤
長野県佐久市 長野県佐久市	長峯 7 号墳 蛇塚3号墳	2		7世紀前葉7世紀中葉	両袖式横穴式石室。 直径14.3mの積石円墳。全長 6 m	長野県6
岐阜県揖斐郡池田町	南高野古墳	2	37図-117.118 (117は径3.5×3.0cm、118 は径3.4×3.0cm)		の横穴式石室。 直径22mの円墳で周溝を持つ中規 模首長墳。全長10.5mの片袖式横	
岐阜県関市	小洞古墳群ST1土坑墓	1	43図-30 (径3.3×3.0cm、重さ8.5g)	7世紀前葉	穴式石室。 9号墳の西に所在。長軸3.04×短	岐阜県②
					軸0.76m。	
	天王ケ谷52号横穴墓 原B-13号墳	2	765、766(共に径3.2×3.1cm)	7世紀前葉	全長4.2m。	静岡県①
静岡県周智郡森町 静岡県藤枝市			1			静岡県2
静岡県周智郡森町 静岡県藤枝市 静岡県藤枝市	板澤6号墳					
静岡県藤枝市		2	36図-1.2 (1は外径2.82×2.65cm、重さ10.3 kg。2は外径2.8×2.65cm、重さ10.9kg)	6世紀後葉	 円墳、直径20~25m。全長10.2m 程度の横穴式石室。	
静岡県藤枝市 静岡県藤枝市	板澤6号墳	2		6世紀後葉 6世紀後葉~7世紀初頭		愛知県①愛知県②

第 4 表 — 2 中空 所在地	耳環出土遺跡一覧(2020) 遺跡名	点数	番号、寸法など	時期	古墳の特徴	文献
愛知県岡崎市	岩津 3 号墳	1	30図-2 (外径3.1×2.9cm)	6世紀後葉~末	墳丘規模不明。横穴式石室は4.1 mのみ残存。	愛知県③
	木村定三コレクション(愛知県 立美術館)	1	M2484 (外径3.1cm)			愛知県④
三重県伊賀市	富岡前山古墳	3	第IV-8図-55.56.57(55は径3.1cm、56は径3.3cm、57は径2.4cm)	10世紀木	王権との関係が強い中堅首長層。 直径20mほどの円墳。全長8.6m の片袖式横穴式石室。	
三重県四日市市 三重県多気郡明和町	御池古墳群 坂本 2 号墳	2	内部に細粒の砂 16図-29.30 (径2.0cm)	TK209 7世紀前葉	一辺16mの方墳。木棺直葬。	三重県②
京都府宇治市	集上り2号墳	2	21図-67.68 (共に径3.85×3.45cm)	6世紀後葉~7世紀初頭	直径30mの円墳。全長9.15mの両	京都府①
京都府城陽市	正道遺跡15号住居跡	1	42図-4 (径1.8cm)	6世紀末~7世紀初頭	袖式横穴式石室。 住居跡。	京都府②
京都府八幡市	荒坂横穴墓群27号墓	2	第18図-94.95(94は径2.95×2.74cm、重	7世紀前葉	全長9m以上の横穴墓。	京都府③
京都府京田辺市	松井横穴墓群15号横穴墓	2	さ3.8g/95は径2.85×2.69cm、重さ4.2g) 第28図-10.11 (10は径2.85×2.55cm、重 さ2.6gで半損/11は径3.1×2.8cm)	7世紀後葉	全長6.6mの横穴墓。	京都府④
京都府京田辺市	松井横穴墓群28号横穴墓	1	第68図-71(径2.8×2.5cm、重さ2.4gで半 損)	TK209	玄室の奥側2.08mのみ残存する横 穴墓。	京都府④
京都府綴喜郡井出町	北大塚 2 号墳	1	第30図-71(径2.8cm、重さ3.9g)	TK209-飛鳥 I	直径16mの円墳。全長4.5m以上 の右片袖式横穴式石室。	京都府⑤
京都府綴喜郡井出町	北大塚 3 号墳	2	第34図-93.94(93は径3.2×3.1cm、重さ5.9 g/94は径2.8×3.0cm、重さ4.6g)	飛鳥 I	墳形 · 規模不明。横穴式石室。	京都府⑤
京都府南丹市	天神山 3 号墳	1	28図-89 (径3.1×2.7cm)	7世紀初頭	直径12mの円墳。全長8.0mの無 袖式横穴式石室。群集墳。	京都府⑥
京都府綾部市	高谷10号墳	2	径2.8×2.2cm	TK209	直径15~10mの円墳。無袖式横穴 式石室。	京都府⑦
京都府福知山市	城ノ尾古墳	2	37図-18 (径3.3×3.0cm)、もう一点は破片	6世紀末~7世紀前葉	直径12~10.5mの円墳。全長7.35 mの無袖横穴式石室。	京都府⑧
大阪府四条畷市	大上 5 号墳	1	 30図-88.30図-39 ともに直径1.4cm、重		直径4.5mの円墳。組合式木棺直	大阪府①
大阪府柏原市	田辺17号墳	2	さ2g、金製	7世紀中頃	葬。田辺史氏の墓域。	大阪府②
大阪府柏原市	雁多尾畑支群6号墳		径3.1×2.9cm	6世紀末	片袖式横穴式石室。 直径16mの円墳。全長8.8mの左	大阪府③
大阪府南河内郡河南町	加納 2 号墳	1	27-27 (径3.3cm)	6世紀末~7世紀前葉	片袖式横穴式石室。群集墳。	大阪府④
大阪府南河内郡河南町	寛弘寺K-11号墳	1	径3.32×3.13cm、重さ6.2g。 33図-84.85 84は外径2.6~2.99cm、85は		群集墳。直径12m程度の円墳。全	大阪府⑤
大阪府南河内郡河南町	石塚 3 号墳	2	外径2.55~2.8cm	6世紀末	長6.9mの両袖式横穴式石室。	大阪府⑥
兵庫県宝塚市	雲雀丘B1号墳	1	径3.35×2.95cm	TK209	墳形・規模は不明。両袖式横穴式 石室。	兵庫県①
兵庫県西宮市	老松 1 号墳	2	径2.7×2.7cm、重さ9.5g/径2.95×2.95 cm、13.7g	TK217	直径13~15mの円墳。右片袖式横 穴式石室。	兵庫県②
兵庫県芦屋市	八十塚古墳群岩ヶ平支群第60号 墳	1	9図-14(径3.8×3.45cm、破損しているが 現重量6.7g)	6世紀末~7世紀初頭	直径10mの円墳。全長5.8mの無 袖式横穴式石室。隣の61号墳から 双龍環頭大刀出土。	兵庫県③
兵庫県三田市	高川 1 号墳	2	33図-F25.F26 復元外径3.4~3.1cm	6世紀末~7世紀初頭	群集墳。直径11mの円墳。全長7. 4mの片袖式横穴式石室。	兵庫県④
兵庫県多可郡多可町	入角69号墳	1			直径18.5~14.5mの円墳。両袖式 横穴式石室。	兵庫県⑤
兵庫県多可郡多可町	入角100号墳	1	10051 1 //70 010 0 0 //70 010 0	飛鳥Ⅱ	直径12~9mの円墳。無袖式横穴 式石室。	兵庫県⑤
兵庫県多可郡多可町	東山15号墳	2	108図-1 (径2.6×2.3cm) .2 (径2.6×2.4 cm)	7世紀中葉	群集墳。直径25mの円墳。全長12.4 mの両袖式横穴式石室。	兵庫県⑥
兵庫県多可郡多可町	東山10号墳	3	49図-1 (径3.5×3.2cm). 2 (径3.1×2.8 cm)、排土中から非掲載一点あり 106図-2 (径2.8cm) .3 (径2.8cm) .4 (径	7世紀前葉	群集墳。直径20mの円墳。全長12 mの両袖式横穴式石室円墳。 群集墳。直径22mの円墳。全長11.1	兵庫県⑦
兵庫県多可郡多可町	東山12号墳	4	3.1×2.8cm).5(径3.1×2.8cm)	7世紀初與	研究項。恒径22mの円項。至長11.1 mの無袖式横穴式石室円墳。 直径20mの円墳。全長8.0mの片	兵庫県⑦
兵庫県姫路市	西脇丸山2号墳	1	M14 (径3.2×3.0cm)	6世紀末~7世紀初頭	袖式横穴式石室。	共庫県 8
兵庫県赤穂市 兵庫県豊岡市	野田祇園塚古墳 二見谷 4 号墳	1	図31-13 (径3.6×3.1cm) 径3.2×3.02cm、木芯	6世紀末~7世紀初頭 TK209	横穴式石室。 直径18mの円墳。両袖式横穴式石室。	兵庫県⑩
兵庫県淡路市	富島遺跡B地区石棺 1	1	M1 (外径3.1×2.9cm、重さ4.60g)	7世紀前葉	箱形石棺。	兵庫県①
兵庫県神戸市	高塚山 7 号墳	1	fig.79 外径3.6」×3.3cm	6世紀後葉~末	直径17~13mの楕円墳。全長10.7 mの片袖式横穴式石室。	兵庫県12
奈良県奈良市	狐塚 3 号横穴墓	2	P20-7は径3.4×3.2cm、重さ6.6g、P20-8 は径3.3×3.2cm、重さ10.5g	7世紀初頭	横穴墓群。	奈良県①
奈良県天理市	ハミ塚古墳	1	30図-9(径2.7cm。土芯?)	TK43~TK209	一辺46.7×44.1mの方墳で周濠を 持つ。全長約12mの横穴式石室。 物部氏系の首長墓。	奈良県②
奈良県天理市	龍王山E-12号	1	191図-1 (径3.0×2.85cm)	飛鳥Ⅱ~Ⅲ	一辺6.5×8m以上の方墳。全長3 m以上の横穴式石室か。	奈良県③
奈良県天理市	龍王山B-2号	1	45図-3 径3.2×3.05cm	TK43~TK209	直径11mの円墳。全長5.2mの片 柚式横穴式石室。	奈良県③
奈良県天理市	タキハラ3号墳	2	79図-J1.J2 (共に外径2.45×2.4cm)	7世紀前葉	直径16mの円墳。玄室長3.1mの両袖式横穴式石室。群集墳。	奈良県④
奈良県天理市	石上北A5号墳	2	23図-J2.23-J4 (J2は外径2.6×2.4cm、J4 は外径3.0cmか)	6世紀末~7世紀初頭	直径10mの円墳。全長6.0m以上の両袖式横穴式石室。物部氏構成員。	奈良県④
奈良県天理市	ホリノヲ6号墳	2	41図-14、41図-16 (ともに径3.3×3.0cm。 14は中空、15は内部に砂が入る)	TK209~飛鳥 I	直径10mの円墳。全長5.4m以上の 右片袖式横穴式石室。物部氏構成員。	奈良県⑤
奈良県葛城市	寺口忍海H-22号墳	2	200図-1.2 (ともに径2.0×1.9cm)	TK43~TK209	直径18~10mの長円墳。全長11.72 mの両袖式横穴式石室(H地区最大)。渡来系技術者。	奈良県⑥
奈良県葛城市	寺口忍海H-34号墳	2	285図-1.2(1は径3.45×3.05cm、2は径3.8 ×3.2cm)	TK43~飛鳥Ⅱ (耳環 は初葬?)	直径15mの円墳。全長8.1mの右 片袖式横穴式石室(古墳群内では 大型)。渡来系技術者。	奈良県⑥
奈良県葛城市	三ッ塚11号墳	1	63図-105(径2.97×3.18cm、重さ4.2g)	TK209~飛鳥 I	直径11mの円墳。全長10.2mの両袖 式横穴式石室。古墳群の造墓基点。	奈良県①
奈良県葛城市	三ッ塚古墳群小石室 9	2	89図-1.2(1は外径2.62×2.75cm、重さ4.1 g。2は径2.78×2.64cm)	飛鳥Ⅱ	石室内法1.7m。	奈良県⑦
奈良県香芝市	尼寺廃寺塔心礎	3	J1 (径1.89×1.9cm、重さ2.08g)、J10 (径1.9×1.82cm、重さ2.23g)、J12 (径 1.48×1.41cm、重さ0.54g)	650~660年創建	紀氏が造営?。12点中の3点が中 空耳環。	奈良県⑧
奈良県御所市	ドンド垣内6号墳	2	19図-1.2 (1は外径3.0cm、2は外径3.0cm)	不明	墳形・規模不明。長さ2.4mの小 石室。渡来系氏族の朝妻氏か。	奈良県⑨
奈良県宇陀市	丹切33号墳	1	96図-1 (径20.9×1.98cm、1.8g)	7世紀前葉	墳丘ははっきりしないが10m以下。 全長6.6mの両袖式横穴式石室。	奈良県⑩

所在地	耳環出土遺跡一覧(2020) 遺跡名	点数	番号、寸法など	時期	古墳の特徴	文献
奈良県宇陀市	丹切43号墳	1	123図(3.4×3.28cm、重さ16.6g)	6世紀末~7世紀初頭	東海への出入り口を固める中堅官 人層クラス。墳丘ははっきりしな い。全長3mの片袖式横穴式石室	
* 立目 空吸 ま			 18図-1.2 1 は、外径3.6×3.3cm、2は外	TK43(初葬から追葬	の玄室のみ残る。 百済系の鐶座金具あり。直径15m	
奈良県宇陀市	高田垣内古墳群・室の谷1号墳	2	径3.45×3.3cm	までこの時期)	ほどの円墳。全長8.3m以上の左 片袖式横穴式石室。 平群谷の紀氏系の首長墳。全長35	余良県W
奈良県生駒郡平群町	三里古墳	2	27図-J1.J2 (J2は、外径2.7×2.5cm、J1 は、径2.6cm)	6世紀中葉~後葉	mの前方後円墳。全長12mの両袖 式横穴式石室。	
和歌山県和歌山市 和歌山県和歌山市	前山B36号墳 前山A87号墳	1	耳環5 3.05×2.9cm 小型	6世紀末~? 6世紀末~?	円墳で全長5.35m以上の横穴式石室。 直径10mの円墳で横穴式石室。	和歌山県① 和歌山県①
鳥取県米子市	大硲山C-8号横穴墓	2	82図-329.330 (329は径3.43×3.15cm、330			鳥取県①
島根県安来市	小汐手B-2号横穴墓	1	は径3.48×3.19cm) 3.6×3.3cm 、中空銀環?	6世紀末~7世紀初頭	LECOTOM S MY CERO	島根県①
島根県安来市	鷺の湯病院跡構穴墓	2	太型銅板鍍金中空耳環 2	出雲3期	全長41.5mの前方後円墳(寺輪古	
島根県松江市	福浦法田峠 2 号墳	1	14図-13 (径2.9cm)	出雲4~5期	墳)が後背墳丘。新興首長層。 直径9.3m以上の円墳。全長6.3m 以上の両袖式横穴式石室。海洋的	
島根県出雲市	上塩冶築山古墳	2	28図-1 (中空金装銀環 径3.9×3.44cm)、 28-2 (中空金装銀環 径3.83×3.39cm)	6世紀後葉~7世紀初頭		島根県④⑤
島根県出雲市	半分古墳	1	102図-3 (中空銀環片(東博蔵)、径3.5cm 前後)	6世紀中葉~後葉(出 雲3期古)	穴式石室。広域首長墓。 全長40~45mの前方後円墳。全長 9.4m以上の横穴式石室。大念寺 古墳被葬者の次席級。	島根県④⑥
島根県出雲市	上塩冶横穴墓群第22支群 2 号横 穴墓	1	171図-11(中空銅板、径3.5×3.0cm)	出雲6a~d期	全長3.3mの横穴墓。石床2基。	島根県⑦
島根県出雲市	上塩冶横穴墓群第33支群7号横	1	86図-30(中空銅板、径3.2×3.0cm)	出雲5期	全長3.75mの横穴墓。組合式石棺	島根県⑦
島根県出雲市	穴墓 大井谷東 A - 1 号横穴墓	1	径3.5cm前後、中空銅板鍍銀	7世紀前葉	1基。 横穴墓群。	島根県⑧
島根県出雲市	三田谷 I 遺跡SD06	1	[14回-8 (中空銅板耳環、径3.5×3.2cm)	出雲6a~	河道出土。	島根県9
島根県出雲市	三田谷 4 号墳石室内	1	13図-1(中空銅板金貼、径2.4×2.2cm)	出雲4~5期	墳形・規模は不明。全長4.4mの 横穴式石室。	島根県⑩
島根県出雲市	大梶古墳	2	中空銅板金貼耳環 径3.3cm、 中空銅板 金貼耳環 径3.25cm	出雲5期	受している。 全長4.65m以上の横穴式石室。円 筒埴輪あり。	島根県①
島根県出雲市	放れ山横穴墓群 1 号横穴墓	1	径3.0×2.7cm、中空銀環	出雲4期(横穴墓型式) ・6期(須恵器)	全長2.5mの横穴墓。	島根県⑫
島根県出雲市	浅柄北7号横穴墓	2	115図-8(中空銅板、径3.2×3.0cm)、115 図-9(中空銅板、径3.0×2.9cm)	出雲5期	全長約3mの横穴墓。	島根県13
島根県出雲市	小浜山C-2号横穴墓	2	41図-22(中空銅板金環、径3.2×3.1cm)、 41図-23(中空銅板金環、径2.9×2.8cm)	出雲4期	全長2.1mの横穴墓。	島根県49
島根県出雲市	美談神社 2 号墳	1	12図-1(銅芯金箔貼中空金環、径2.935 ×2.80cm、重さ12.57g)	出雲4~6bc期	一辺13mの方墳。全長4.9mの両 袖式横穴式石室。	島根県⑮
島根県飯石郡飯南町	谷川遺跡 旧河道	1	61図-51 (径2.3×2.1cm)	不明	縄文~奈良時代の河道中出土。	島根県16
島根県隠岐郡知夫村	高津久 2 号横穴墓	2	13図-4(中空銅芯鍍金、径2.26×2.165cm、重さ2.6g)、13図-5 (中空銅芯鍍金、径2.32×2.17cm、重さ2.8g)	7世紀前葉~後葉	横穴墓中で最大規模かつ造墓基点。 全長4m。	島根県⑰
岡山県岡山市	西山 2 号墳	1	42図-23(径2.91×2.74cm、重さ5.25g)	6世紀後半~7世紀初頭	群集墳。直径15.5mの円墳。全長 9.3mの片袖式横穴式石室。	岡山県①
岡山県倉敷市	琴海 1 号墳	2	22図-97、22図-98。97は径3.25×2.92cm、重 さ5.6g。98は外径3.27×2.94cm、重さ5.4g	6世紀末~7世紀前葉	小規模首長墳か。直径12mの円墳。 全長7.4m以上の無袖式横穴式石室。	岡山県②
岡山県総社市	沖田奥2号墳	1	140図-2(径3.0cm、破損しているが現重 量は2.6g)	7世紀前葉	直径14mの円墳。全長6.85mの右 片袖式横穴式石室。	岡山県3
岡山県赤磐市	岩田14号墳	2	109図-13.14 (13は径2.55×2.4cm、14は 径2.55×2.4cm)	6世紀後半~7世紀初頭	中規模首長墳。直径20mの円墳。 全長11.8mの片袖式横穴式石室。	岡山県④
岡山県津山市	コウデン2号墳	3		6世紀後葉	直径15.5mの円墳。全長8.2m以上 の横穴式石室。	岡山県⑤
岡山県津山市	的場 2 号墳	1	26図-45 (径3.1cm)	7世紀前葉	小規模な首長墳。直径10m程度の 円墳。全長5.6mの無袖式横穴式 石室・陶棺。	岡山県⑥
岡山県美作市	川戸2号墳	2	23図-5.23図-6(両者径3.2cm)	7世紀前葉	英田郡北部の首長墓で一辺17mの方墳。全長12.3mの片袖式横穴式石室。	岡山県で
岡山県勝田郡勝央町	工業団地内第Ⅱ調査区10号墳	2	26図-40(径3.3×3.0cm).26図-41(径3.2 cm)	7世紀初頭~前半	群集墳。直径13×11mの楕円墳。 全長6.4mの無袖式横穴式石室。	岡山県®
岡山県勝田郡勝央町	畑ノ平10号墳	1	49図-33(銀製)	7世紀初頭~前葉	群集墳。直径9.5×8.5mの円墳。 全長5.7mの無袖式横穴式石室。	岡山県9
岡山県真庭市	空古墳	1	8図-1 (径3.4×3.0cm)	6世紀後半~7世紀中葉	直径11.5×9mの楕円墳。全長8.9 mの片袖式横穴式石室。	岡山県⑩
広島県広島市	四本寺第2号墳	1	22図-110(径3.8×3.15cm、現状で重さ6.0 g)	7世紀前葉~後葉	一辺15m前後の方墳。全長6mの 無袖式横穴式石室。	広島県①
広島県三次市	見尾山第1号墳	1	60図-131(破片)	7世紀初頭	直径17.2mの円墳。全長10.2mの 横穴式石室。	広島県②
広島県三次市	田戸北古墳群SX01					広島県③
広島県三次市 広島県三次市	田戸南第1号墳 札場古墳	1	 第Ⅲ-10図-32(径3.2×3.0cm、重さ2.6g)	6冊紀後半~7冊知益華	 直径9mの円墳。全長5.1mの無袖	広島県③ 広島県④
広島県安芸高田市	大迫古墳	1	京加-10図-32 (全3.2×3.0cm、重さ2.bg) 14図-39 (外径3.2×3.1cm、重さ8.35g)	b世紀後半~7世紀削集 TK43~209	式横穴式石室。単独の小首長墳。 直径12mの円墳。全長5.56m以上	広島県⑤
					の無袖式横穴式石室。小首長墳。 直径11mの円墳。全長7.2mの無	
広島県山県郡北広島町 	石塚第 1 号墳 銭神第 5 号墳	1	8図-1 (径2.2cm) 40図-5 (破損しているが復元径3.0cm)	7世紀前葉~中葉 6世紀末~7世紀初頭	袖式横穴式石室。小首長墳。 群集墳の造墓基点。直径6.4mの円墳	広島県⑥
			第4-45図-60.61(60は径2.95×2.8cm、重		か。全長4.36mの無袖式横穴式石室。 直径6.5mの円墳。 残存長3.1の横	
広島県東広島市	志村第7号墳	2	さ3.0gで一部欠損		穴式石室。	広局県0
山口県萩市	見島ジーコンボ123号墳	1	第9図-Hbr 1(外径2.83~2.95cm 重さ5.67g)	7世紀後半	山口県で唯一。全長3.75mの無袖 式横穴式石室。 群集株 声深8.5mの四株 今月6.8	山口県①
徳島県板野郡上板町	柿谷遺跡第10調査区 4 号墳	1	58図-204 (径3.05cm×2.95cm)	6世紀末~7世紀初頭	群集墳。直径8.5mの円墳。全長6.8 mの疑似両袖式横穴式石室。 群集墳の造墓基点。直径10mの円	徳島県①
徳島県板野郡上板町	山田 1 号墳	1	22図-112 (径3.1cm×2.85cm)	6世紀後葉~7世紀前葉	群集項の宣暴基点。直径10mの円 墳。全長6mほどの横穴式石室痕跡。 群集墳の造墓基点の中小首長墓。	徳島県①
香川県高松市	南山浦11号墳	1	26図-393(径4.0cm)	7世紀初頭	群集項の道暴基点の中小自長基。 直径12mの円墳。全長9.3mの両 袖式横穴式石室。	香川県①

所在地	耳環出土遺跡一覧(2020 遺跡名	点数	番号、寸法など	時期	古墳の特徴	文献
香川県高松市	城所山2号墳(1号墳の可能性 もあり)	2	28図-68(径3.2×3.55cm、重さ7.8g)、69 (径3.15×3.5cm、重さ7.2g)	6世紀末~7世紀初頭	直径12mの円墳。全長2.8mの無 袖式横穴式石室。	香川県②
香川県善通寺市	北原2号墳	5	23図-115.116.117.118。J18 (115は外径3.0×2.8em、重さ5.36g。116は外径2.9×2.7cm、重さ4.51g。117は外径2.8×2.6cm、重さ3.04g。118は外径2.8cm、重さ4.06g。J18は破片化している)	6世紀後葉~7世紀初頭	中堅首長墓。直径15mの円墳。全 長7.6mの両袖式横穴式石室(第 1 石室)。	香川県③
香川県善通寺市	北原 3 号墳	2	11図-25 (径2.5cm)、26 (外周が破損) 共に中空銀環	7世紀初頭	小規模首長墳。直径15mの円墳。 全長3.2m以上の片袖式横穴式石室。	香川県3
香川県善通寺市	宮が尾1号墳	2	53図-028.029 (28は径2.7×2.55cm、29は 破片)	7世紀初頭	中堅首長墓。直径22mの円墳。全 長9.2mの両袖式横穴式石室。	香川県④
香川県善通寺市	宮が尾2号墳	1	88図-060 (径2.55×2.35cm)	7世紀初頭	中堅首長墓。直径13mの円墳。全 長7.5mの片袖式横穴式石室。	香川県④
香川県善通寺市	夫婦岩1号墳	1	51図-1 (径5.9×5.5cm) ?	6世紀後葉~7世紀初頭	直径12~9.6mの円墳。全長8.3m の両袖式横穴式石室。	香川県⑤
香川県三豊市 香川県坂出市	吉田4号墳 サギノクチ 1 号墳	1	破片で径3cm程度		- Formation (Contraction)	香川県⑥香川県③
香川県さぬき市	北山八坂古墳 2 号石室	2	35図-56.57(56は外径2.9×2.84cm、重さ 6.1g。57は外径2.98cm。)	7世紀前葉	直径15mほどの円墳。1号石室は両 袖式横穴式石室。2号石室は無袖式。	香川県で
香川県さぬき市寒川町	蓑神 5 号墳	1	12図-58 (外径3.0×3.3cm、重さ6.9g)	6世紀末~7世紀前葉	群集墳。径14.0~12.6mの楕円墳。 全長4.17mの両袖式横穴式石室。	香川県®
香川県東かがわ市	成重 2 号墳	2	291図-36.37 (共に径2.0cm)	7世紀前葉	群集墳。径14.0~15.0mの円墳。2 基の横穴式石室。2号石室は全長 3.3m以上の両袖式横穴式石室か。	香川県⑨
香川県木田郡三木町	塚谷古墳	1	141図-2165(径1.7×1.65cm).	7世紀中葉	直径14mの円墳。全長5mの横穴 式石室痕跡。	香川県⑩
香川県香川郡直島町	喜兵衛島 1 号墳	2	径2.75cm、径2.6cm	7世紀前葉	直径12mの円墳。全長6.94mの無 袖式横穴式石室。	香川県①
香川県まんのう市	町代3号墳	2	24図-122 (径3.7×3.5cm)、24図-123 (径 3.7×3.5cm)	6世紀末	恒民債人氏石室。 直径10mの円墳。全長8.2㎝の両 袖式横穴式石室。	香川県⑫
愛媛県松山市	鶴ヶ峠古墳群H区 9 号墳	2	5.7~5.3cm) 51図-234(径2.65×2.45cm).51図-235 (径2.65×2.45cm)	7世紀初頭	恒 径9mの円墳。全長 6 m以上の 両袖式横穴式石室。	愛媛県①
愛媛県松山市	鶴ヶ峠古墳群H区 7 号墳	1	33図-116 (外側が破損)	7世紀初頭	両袖兵領八八石室。 群集墳造墓の基点。直径20mの円 墳。全長9mの両袖式横穴式石室。	愛媛県①
愛媛県松山市	東山鳶が森 8 号墳A石室	1	64図-4.金製	6世紀末~7世紀初頭	環。主接9111の同福式債八式石室。 群集墳。直径14mの円墳。全長6.8 mの両袖式横穴式石室。	愛媛県②
愛媛県松山市	大池東1号墳	1	24図-31 (外径2.4cm)	7世紀初頭~前葉	群集墳。直径22mの円墳。全長7.75	愛媛県③
愛媛県松山市	大池東2号墳	2	52図-95 (径3.0cm、重さ4.79g) .98 (径3.0	6世紀末~7世紀初頭	mの両袖式横穴式石室。 群集墳。直径19.75~16mの円墳。	愛媛県③
福岡市博多区	立花寺 2 号墳	1	cm、重さ3.01g) Fig18-38(径2.2×2.15cm)	6世紀後半~末	全長2.25m以上の横穴式石室。 群集墳。直径10mの円墳。全長4.25	福岡県①
福岡市南区	大牟田19号墳	1	No.3		mの両袖式横穴式石室。	福岡県②
福岡市南区	大牟田43号墳	2	7図-1 (径3.0cm)	6世紀末~7世紀初頭	小規模な円墳か。全長4.0mの両 袖式横穴式石室。	福岡県3
福岡市城南区	片江 6 号墳	2	29図-3.4 (径2.75cm)	6世紀後半~7世紀初頭	直径10.5mの円墳。全長7.42mの 両袖式横穴式石室。群集墳。	福岡県④
福岡市東区	三苫10号墳	1	242図-3 (径3.3×2.95cm)	7世紀前半	群集墳。墳丘は直径10m以下。横 穴式石室は玄室部分の1.44mのみ 残る。	福岡県⑤
福岡市西区	広石IV-2号墳	2	83図-5と非掲載品 5は2.3×2.2cm	6世紀後葉	群集墳。直径12mの円墳。全長6. 18mの両袖式横穴式石室。	福岡県⑥
福岡市西区	羽根戸B-11号墳	1	径3.2×2.8cm	6世紀中葉	片袖式横穴式石室。 群集墳の造墓基点。直径14mの円	福岡県⑦
福岡市西区	桑原石ヶ元17号墳	1	図108-40=30964(径2.18×2.07cm、重さ 1.64g、木芯)	6世紀中集(新しくて もTK10)	墳。横穴式石室は玄室の3.3mし か残らない。	福岡県®
福岡市西区	桑原石ヶ元28号墳	2	図30612(径2.45×2.34cm、重さ0.83g)、 図30624.と図30611.は同一個体か。木芯	巴和汉朱	群集墳。直径12mの円墳。全長5. 28mの両袖式横穴式石室。	福岡県8
福岡市西区	元岡N-3号墳	2	92図-57 (径2.7×2.75cm)、92図-58 (径 2.65×2.6cm)	7世紀後葉	群集墳。直径9mの円墳。横穴式 石室は玄室部分2mが残る。	福岡県9
福岡市西区	元岡G-6号墳	2	33図-30.31(30は径2.5×2.3cm、31は径2.4 ×2.3cm)	7世紀初頭	直径18mの円墳。全長5mの両袖 式横穴式石室。「庚寅」銘大刀と本 邦最大の銅鈴。	福岡県①
福岡県北九州市小倉南区	下吉田41号墳	1	56図-2(径2.65×2.4cm、重さ2.72g)	6世紀末~7世紀初頭	直径10.7mの円墳。全長3.5m以上 の両袖式横穴式石室。	福岡県①
福岡県北九州市小倉南区	八旗神社 1 号墳	1	9図-29 (径1.88×1.83cm、重さ1.7g)	6世紀末~7世紀初頭	直径10mの円墳。全長7.6m以上 の複室構造横穴式石室。双龍環頭 大刀・馬具を持つ新興首長。	福岡県庭
福岡県春日市	西浦 1 号墳	2	5図-1.2 (1は3.1×3.0cm、2は3.05×2.9 cm)	7世紀前葉	群集墳。直径7mの円墳。全長2.4 mの両袖式横穴式石室。	福岡県低
福岡県古賀市	古野C-19号墳	2	106図-1.2(径1.9cm、銀製)	7世紀初頭	群集墳。墳形墳丘規模は不明。全 長3.8mの両袖式横穴式石室。	福岡県個
福岡県古賀市	古野C-20号墳	2	109図-1.2(径2.4cm、銅鍍金)	7世紀初頭	群集墳。墳形墳丘規模は不明。横 穴式石室は玄室の2.05mが残る。	福岡県個
福岡県古賀市	古野E-13号墳	1	135図-1(径2.1cm、銀製)	7世紀中葉	群集墳。直径18m程度の円墳。横 穴式石室は玄室部4.8mのみ残る。	福岡県(9
福岡県若宮市	小原 8 号墳	1	Fig.100(復元径 3 cm)	7世紀初頭	群集墳。直径12mの円墳。全長 3 m程度の両袖式横穴式石室痕跡。	福岡県低
福岡県宗像市	相原1号墳	1	Fig.5 (外径3.05×2.85cm、金製)	6世紀末	群集墳。直径12m以上の円墳。全 長2.32m以上の両袖式横穴式石室。	福岡県低
福岡県宗像市	浦谷D-8号墳	1	Fig78-8 (径2.2cm)	7世紀初頭	直径10mの円墳。全長1m以上の 横穴式石室。	福岡県の
福岡県宗像市	浦谷H-2号墳	1	Fig80-1 (径2.2cm)	7世紀前葉	墳形規模は不明。全長3.7m以上 の無袖式横穴式石室。	福岡県①
福岡県行橋市	渡筑紫 9 号墳	1	40図-20 (径2.2×2.0cm、破損しているが 重さ1.84g)	7世紀前葉	直径8.6mの円墳。全長3.62mの両 袖式横穴式石室。群集墳。	福岡県低
福岡県若宮市	南ヶ浦4号墳	1	45図-25(径2.6×2.4cm)	7世紀初頭	群集墳。直径12mほどの円墳。全 長6.6mほどの両袖式横穴式石室。	福岡県@
福岡県福津市	奴山34号墳	1	径2.6cm 62図-1.2(1は3.15×2.94cm、2は3.15×3.05	6世紀後葉	直径24mの円墳。両袖式横穴式石室。 群集墳。直径10mほどの円墳。全	福岡県②
福岡県大野城市	牛頸中通り13号墳	2	b2図-1.2 (143.15~2.34cm、243.15~5.05 cm) 11図-1.2 (それぞれ径2.5cm、重さ5g、6	7世紀前葉	群集墳。直径10mほどの円墳。宝 長6.15mの両袖式横穴式石室。 群集墳。直径5mほどの円墳か。	福岡県②
福岡県那珂川市	観音山古墳群 平石IV-1号墳	2	g) 単色の関	6世紀末~7世紀前葉	全長2mの両袖式横穴式石室。 首長墳。直径40mを超える円墳。	福岡県電
福岡県朝倉市	狐塚古墳	1	5図-1(直径3.75×3.5cm)	6世紀後葉~7世紀前葉	自長頃。直径40mを超える円頃。 全長15mの複室構造の横穴式石室 で線刻壁画古墳。	福岡県総

所在地	遺跡名	点数	番号、寸法など	時期	古墳の特徴	文献
福岡県遠賀郡岡垣町	縄手1号墳		銀製			福岡県20
福岡県築上郡上毛町	土佐井遺跡	1	記述のみ			福岡県25
福岡県築上郡上毛町	新池南古墳	1		6世紀仮集~1世紀削集		個岡県の
福岡県築上郡上毛町	皿山古墳群Ⅲ-2号墳	1	128図-28(径2.4×2.2cm、破損するが重 さ1.88g)	6世紀末~7世紀前葉	直径13mの円墳。全長7.3mの両 袖式横穴式石室。	福岡県②
佐賀県鳥栖市	牛原原田遺跡ST05	1	24図-34 (径3.1×3.05cm)	7世紀初頭	墳長53mの前方後円墳。全長9.3 mの両袖式横穴式石室。首長墳。	佐賀県①
熊本県八代郡氷川町	岩立C古墳	2	径2.0×1.8cm、径2.8×2.4cm	6世紀後葉	両袖式横穴式石室。	熊本県①
大分県中津市	上ノ原横穴墓群54号横穴墓	2	313図-67.69(67は径3.05×2.9cm、重さ5.6 g。69は径3.1×2.8cm、重さ6.0g)	6世紀後葉~7世紀中葉	墓道全長9.3m、玄室長2.5m。	大分県①
大分県日田市	伝·朝日天神山1号墳	1	54図-3(径3.0×2.75cm、重さ7.5g)	6世紀後葉~(TK43~	墳長33mの前方後円墳(周溝を含む総長54m)。横穴式石室(破壊)。 2号墳に続く豊後日田地域の首長墳。日下部氏(比多国造)か。	ナムヨの
大分県玖珠郡玖珠町	四日市上ノ原横穴墓群54号墓	2	138図-434.435 (434は径2.7×2.5cm、重 さ5.6g。435は径2.6×2.5cm、重さ5.3g)	6世紀末~7世紀初頭	玄室長さ2.6m。	大分県③

第4表-5 中空耳環出土遺跡一覧(2020年3月時点未成)

宮城県:①2004 東北歴史博物館『杉山コレクション古墳時代関係資料図録』

福島県:①1971 いわき市史編さん委員会『いわき市史 別巻 中田装飾横穴』

茨城県: ①1995 働茨城県教育財団『中台遺跡』 ②20000 霞ヶ浦町教育委員会『風返稲荷山古墳』 ③1983 働茨城県教育財団『常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告7』 ④1980 東京国立博物館『東京国立博物館図版目録・古墳遺物篇(関東 I)』

栃木県:①1993 日本窯業史研究所『上の台古墳』 ②1989 国士舘大学文学部考古学研究室『川崎古墳石室調査報告書』 ③1990 市貝町『市貝町史 第1巻 自然・原始古代・ 中世資料編』市目町史編さん委員会編

群馬県:①1986 赤堀村教育委員会『吉沢峯古墳発掘調査概報』 ②2008(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『亀泉坂上遺跡』 ③1983 東京国立博物館『東京国立博物館図版目 - 2018年 - 20180 - 2018日 - 20

埼玉県:①2006 峨埼玉県埋蔵文化財調査事業団『飯塚北Ⅱ/飯塚古墳群Ⅱ』 ②1986 東京国立博物館『東京国立博物館図版目録・古墳遺物篇(関東Ⅲ)』

東京都: ①1988 小川貴司編『井上コレクション 弥生・古墳時代資料図録』

千葉県:①1990 富津市教育委員会『三条塚古墳』 ②1965 丸子亘「千葉県小見川町城山古墳の調査」『立正大学博物館講座研究報告』23 ③1951 千葉県教育委員会『上総金 鈴塚古墳』 ④1987 小池寛論文

石川県:①1974 輪島市役所『輪島市史』資料編第3巻 ②1971 加賀市教育委員会『法皇山横穴古墳群』 福井県:①2003 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター『滝見古墳群・大飯神社古墳群・山田古墳群・山田中世墓群』

山梨県:①1984 石和町教育委員会『大蔵経寺山15号墳』 ②1988山梨県教育委員会『稲荷塚古墳』

旧采宗、①1804 石村町教育委員会『八蔵経守旧185項』 ②1806旧采宗教育委員会『任間のなら項』 長野県: ①1968 長野県考古学会『信濃・長原古墳群』 ②1991 長野県教育委員会『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書3 大室古墳群』 ③1970 大室古墳群調査会『大室古墳群北谷支群緊急発掘調査報告書』 ④1987 小池寛論文 ⑤1988 佐久市教育委員会『長峯古墳群』 ⑥2000 佐久市教育委員会『蛇塚遺跡・蛇塚古墳』 岐阜県:①2000 峨岐阜県文化財保護センター『南高野古墳・二ノ井遺跡・市場遺跡』 ②2019 峨岐阜県文化財保護センター『小洞古墳群』 静岡県:①2012 静岡県埋蔵文化財センター『森町円田丘陵の横穴墓群』 ②1987 小池寛論文

愛知県:①1998 豊橋市教育委員会『磯辺王塚古墳』 ②1969 愛知県立岩津高等学校『岡崎市・天神山古墳群』 ③1964 岡崎市教育委員会『岩津古墳群』 ④2019 金字大「木村定三コレクション環頭大刀・耳環目録」『研究紀要』 25 愛知県美術館

三重県:①2007 三重県埋蔵文化財センター『伊賀の考古資料』 ②1993 四日市市遺跡調査会『御池古墳群』 / 1997 渡辺智恵美論文 ③2001 明和町教育委員会『坂本古墳群 発掘調査概要報告』

京都府:①1987 闕京都府埋蔵文化財調査研究センター『京都府遺跡調査報告書』第7冊 ②1973 城陽市教育委員会『正道遺跡発掘調査概要』 ③2014 餬京都府埋蔵文化財調査研究センター『京都府遺跡調査報告集』第157集 ④2018 闕京都府埋蔵文化財調査研究センター『京都府遺跡調査報告集』第171集 ⑤2018劇京都府埋蔵文化財調査研究センター『京都府遺跡調査報告集』第175集 ⑥1995 園部町教育委員会『園部天神山古墳群発掘調査報告書』 ⑦1974 綾部市教育委員会『高谷古墳発掘調査概要』 ⑧1981 京都府教育委員会「城ノ尾古墳発掘調査概要」『埋蔵文化財発掘調査概報 第2分冊』

京都时刻官委員会「城ノ尾占項完經調查數要」「里歐又化的完經調查數報 邦之分間。 大阪府: ①2017 四條歐的本資委員会「四條歐市文化時調查年報」第4号 ②1987 柏原市教育委員会『田辺古墳群・墳墓群発掘調查概要』 ③1980 柏原市教育委員会『雁多尾畑古墳群』 ④2009 大阪府教育委員会『加納古墳群・平石古墳群』 ⑤2012 渡辺智恵美論文 ⑥2015 河南町教育委員会『芹生谷遺跡・石塚古墳群』 兵庫県: ①1980 宝塚市教育委員会『雲雀丘古墳群5支群 1号墳』 ②1978 西宮市教育委員会『苦楽園の古墳』 ③2014 芦屋市教育委員会『八十塚古墳群郭145地点発掘調查報告』 ④1991 兵庫県教育委員会『馬川古墳群』 ⑤1997 渡辺智恵美論文 ⑥1999 中町教育委員会『東山古墳群 』 ⑦2001 中町教育委員会『八十塚古墳群耶 第145地点発掘調查報告書』 ④1991 兵庫県教育委員会『高川古墳群』 ⑤1997 渡辺智恵美論文 ⑥1999 中町教育委員会『東山古墳群 』 ⑦2001 中町教育委員会『西脇丸山2号墳』 ⑨1991 側有年考古館『有年考古館蔵品図録』 ⑩1975 城崎町教育委員会『三見合古墳群』 ⑪2007 兵庫県教育委員会『富島遺跡』 ⑫ 1994 神戸市教育委員会『高塚山古墳群発掘調者概要』

1994 神戸中教育委員会「尚塚山占墳莊充掘調章教委」 奈良県:①1985 奈良市教育委員会「山陵町狐塚横穴群の調査」『奈良市埋蔵文化財調査報告書』 ②2003 奈良県立橿原考古学研究所『ハミ塚古墳』 ③1993 奈良県立橿原考古 奈良県:①1985 奈良市教育委員会「山陵町狐塚横穴群の調査」『奈良市古墳群Ⅱ』 ⑤1975 奈良県教育委員会『石上・豊田古墳群発掘調査報告』 ⑥1988 新圧町教育委員会・ 奈良県立橿原考古学研究所『寺口忍海古墳群』 ⑦2002 奈良県立橿原考古学研究所『三ッ塚古墳群』 ⑧2003 香芝市教育委員会『尼寺廃寺 北廃寺の調査』 ⑨2007 奈良 県立橿原考古学研究所『ドンド垣内古墳群』 ⑩1975 奈良県教育委員会『宇陀・丹切古墳群』 ⑪1991 奈良県立橿原考古学研究所『高田垣内古墳群』 ⑫1977 奈良県教育 委員会『平群・三里古墳』 ⑬1958 奈良国立文化財研究所『飛鳥寺発掘調査報告』 和歌山県:①2014 仲原知之「前山B36号墳(資料館を築古墳) の概要と岩橋千塚古墳群の耳環」和歌山県弥生・古墳時代研究会 自取18:①1087 御18 取1 教育文化財研『土塚山楼文幕群』

鳥取県:①1987 Ј鳥取県教育文化財団『大硲山横穴墓群』

島根県:①1987 映鳥取県教育文化財団「大哈山横穴墓群』 島根県:①1989 安来市調査 ②1984 山本清「横穴被葬者の地位をめぐって」『島根考古学会誌』第 1 集 ③2018 松江市教育委員会『福浦法田峠2号墳』 ④1999 島根県古代 文化センター『上塩冶築山古墳の研究』 ⑤2018 出雲弥生の森博物館『上塩冶築山古墳の再検討』 ⑥2019内田律雄・東野律夫・松本岩雄『出雲市上塩冶町半分古墳墳丘測 量報告』『島根考古学会誌』第36集 ⑦1998 島根県教育委員会『上沢 II 遺跡・狐廻谷古墳・大井谷城跡・上塩冶横穴墓』 ⑧1956 門脇俊彦「出雲国大井谷横穴群の研究」 『私たちの考古学』8 考古学研究会 ⑨2000 島根県教育委員会『三田谷 I 遺跡(Vol.2)』 ⑩2000 島根泉教育委員会『三田谷田遺跡』 ⑪1980 島根県教育委員会『出雲 上塩冶地域を中心とする埋蔵文化財調査報告』 ⑫2002 島根県教育委員会『古志本郷遺跡『九 放れ山横穴墓群・只名間府・上沢田遺跡「砂路」 ⑬2009 島根県教育委員 会『御崎谷遺跡・間谷東遺跡・浅柄北古墳・間谷西 II 遺跡・間谷西古墳』 ⑩1995 出雲市教育委員会『小浜山横穴墓群 I 』 ⑫2008 出雲市文化観光部文化財課 花谷浩 『出雲における県の歴史考古学的研究』 ⑯1997 島根県教育委員会『檀原遺跡・谷川遺跡・段澗山毛宅前炉跡』 ⑰2019 西尾克己・岩橋孝典・井谷朋子「隠岐郡知夫村・高

『出雲における県の歴史考古学的研究』 ⑥1997 島根県教育委員会『檀原遺跡・谷川遺跡・殿淵山毛宅前炉跡』 ⑪2019 西尾克己・岩橋孝典・井谷朋子「隠岐郡知夫村・高 津久横穴墓群について(報告編)」『古代文化研究』第27号 間山県、①1996 岡山県教育委員会『田益新田遺跡・西山古墳群』 ②1980 岡山県教育委員会『本州四国連絡橋陸上ルート建設に伴う発掘調査 I』 ③1991 総社市教育委員会 『水島機械金属工業団地協同組合 西団地内遺跡群』 ④1976 山陽町教育委員会『岩田古墳群』 ⑤1980 久米開発事業に伴う文化財調査委員会『終山遺跡群2 久米開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告2』 ⑥2001 津山市教育委員会『的場古墳群』 ⑦1995 大原町教育委員会『川戸古墳郡発掘調査報告書』 ⑧1976 勝央町教育委員会『勝中 東大工業団地建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告2』 ⑥2001 津山市教育委員会『内場古墳群』 ⑦1995 大原町教育委員会『川戸古墳郡発掘調査報告書』 ⑧1976 勝央町教育委員会『勝中 中校工業団地建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』 ⑥1996 岡山県教育委員会『西大沢古墳群・畑ノ平古墳群・虫尾遺跡・黒土中世墓・茂平古墓・茂平城』 ⑩1976 岡山 県教育委員会『中国総貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査6』 広島県: ①2019 (公財)広島市文化財団『四本寺第2号墳』 ②1998 広島県埋蔵文化財調査センター『灰塚ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』 ③2004 三良坂町教育 委員会『灰塚ダム水没地区遺跡群・田戸北古墳群・田戸古墳群・田戸古墳・福山城跡・』 ④2009 側広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化 財発掘調査報告で、⑤1973 土師埋蔵文化財発掘調査団『土師・土師ダム水没地域埋蔵文化財発掘調査報告』 ⑥1974 広島県教育委員会『石塚古墳発掘調査報料』 ⑦1987 側広島県埋蔵文化財調査センター『銭神第2・4・5号古墳発掘調査報告書』 ⑧1992 側広島県埋蔵文化財親査センター『山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告*い』 山口県: ①2017 横山成己『見島ジーコンボ古墳群 第128号墳(再)・西部域出土資料報告』 山口大学埋蔵文化財資料館 徳島県: ①1994 徳島県教育委員会『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書10』 香川県: ①1985 高松市教育委員会『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書10』

福岡県・①1997 徳岡県教育委員会『南山浦古墳群調査報告書』 ②2008 高松市教育委員会『横岡山古墳群・城所山古墳群』 ③2003 香川県教育委員会『北原2号墳・北原遺跡』 ④1997 善通寺市教育委員会『東跡有岡古墳群(宮が尾古墳)保存整備事業報告』 ⑤2012 善通寺市教育委員会『善通寺市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書13』 ⑥1992 財田町教育委員会『古田古墳発掘調査報告書』 ⑦1997 長尾町教育委員会『八坂墳墓群・北山八坂古墳』 ⑥2003 さぬき市教育委員会『養神古墳群』 ⑥2004 香川県埋蔵文化財調査センター『成重 I 遺跡』 ⑩2002 香川県埋蔵文化財調査センター『小谷窯跡・塚谷古墳』 ⑪1999 喜兵衛島刊行会『喜兵衛島』 ⑫1999 満濃町教育委員会『町代3号墳・町代遺跡』

愛媛県:①2008 松山市教育委員会『鶴が峠遺跡Ⅱ』 ②1981 松山市教育委員会『東山鳶が森古墳群調査報告書』 ③1998 松山市教育委員会・㈱松山市生涯学習振興財団埋蔵 文化財センター『大峰ヶ台遺跡Ⅱ』

文化財センター『大峰ヶ台遺跡Ⅱ』
福岡県:①1988 福岡市教育委員会『立花寺古墳群』 ②2000 西山めぐみ論文 ③1971 大牟田古墳調査団『福岡市・大牟田15号・43号墳発掘調査報告』 ④1973 福岡市教育委員会『二百古墳群発掘調査報告書』 ⑤2003 福岡市教育委員会『二百古墳群発掘調査報告書』 ⑥2003 福岡市教育委員会『二百日古墳群発掘調査報告書』 ⑥2003 福岡市教育委員会『二日日本教育委員会『二日日本教育委員会『二日日本教育委員会『二日日本教育委員会『二日日本教育委員会『二日本教育委員会『二日本教育委員会『二日本教育委員会『二日本教育委員会『二日本教育委員会『八川本教育文化事業団埋蔵文化財調査室『下吉田古墳群』 ②2014 北九州市教育委員会『八版神社古墳群』 ③1982 春日市教育委員会『西浦古墳群・福岡県春日市大字上白水所在遺跡の調査』 ④1978 福岡県教育委員会『九州総貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 X I 』 ⑤1977 福岡県教育委員会『西浦古墳群・福岡県春日市大字上白水所在遺跡の調査』 ④1978 福岡県教育委員合『九州総貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 X I 』 ⑤1977 福岡県教育委員会『西浦古墳群』 ③1982 宗像市教育委員会『福谷古墳群 I 』 ⑤1979 宗像市教育委員会『東京本教育委員会『福谷古墳群 I 』 ⑥1979 宗像市教育委員会『東京本教育委員会『福谷古墳群 I 』 ⑥1979 宗像市教育委員会『東京本教育委員会『本京田工業団地関係埋蔵文化財調査報告』 ⑥1982 宗像市教育委員会『福岡県教育委員会『福岡県教育委員会『福岡県教育委員会『福岡県文化財調査報告』 ⑤1983 大野城市教育委員会『中野中通遺跡群』 ②2009 福岡県教育委員会『観音山古墳群平石IV・V 群、観音山古墳群瀬戸II 群』 ③1954 福岡県教育委員会『福岡県文化財調査報告』 ⑤17個 ②1992 岡垣町教育委員会『福岡県教育委員会『福岡県文化財調査報告』 ⑤17個 ②1992 岡垣町教育委員会『福岡県教育委員会『石留横穴墓田本教育本書会『北京田田造跡郎』 ③2014 小州歴史資料館『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告』 ②2014 小州歴史資料館『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告』 ②2014 小州歴史資料館『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告』 ②2015 九州歴史資料館『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告』 ②2014 本財教育会員会『本田本教育委員会『福岡県文化財調査報告』 ⑤1994 南東本教育委員会『福岡県教育委員会『石留横穴墓田本教育委員会『福岡県文化財調査報告』 ②1994 南東本教育委員会『福岡県文化財調査報告』 ②1994 南東本教育委員会『福岡県教育委員会『福岡県文化財調査報告』 ②1994 南東本教育委員会『福岡県文化財調査報告』 ②1994 南東本教育委員会『福岡県文化財調査報告』 ②1994 南東本教育委員会『福岡県文化財調査報告』 ②1994 南東本教育委員会『本田本本教育委員会』 ②1994 南東本教育委員会『本田本本教育委員会』 ②1994 南東本教育委員会『本田本本教育会』 ②1994 南東本教育会』 ②1994 南東本教育会員会『本田本教育会』 ②1994 東東本教育会員会『本田本本教育会』 ②1994 東東本教育会員会』 ②1994 東東本教育会員会』 ②1994 東東本教育会園・第2015 東東本教育会園・東京教育会園・第2015 東東本教育会園・第2015 東東本教育会園・東東本教育会園・第2015 東東本教育会園・第2015 東東本教育

佐賀県: ①1994 鳥栖市教育委員会『牛原原田遺跡』

能本県:①1987 小池寛論文

大分県:①1991 大分県教育委員会『上ノ原構穴墓群Ⅱ』 ②2005 日田市教育委員会『朝日天神山古墳群』 ③2000 大分県教育委員会『四日市上ノ原構穴墓群』

3. 島根県内の中空耳環の分布とその意義

島根県内の中空耳環出土状況は、17遺跡から23点が出土している。中空耳環について全国規模の悉皆調査は、1987年の小池寛氏の論考後は管見の限り知られない。福岡県や香川県、近畿地方で個別の検討例があるが、中空耳環の具体的数量や分布濃淡については実像が見えにくい状況である。

全国の中空耳環出土地については調査途中の不十分な情報ではあるが、小池寛氏の指摘するように九州北部や大阪府、奈良県に多く分布するほか、岡山県や広島県の山間部、香川県、愛媛県など四国北岸にもやや濃密に分布が見られる。一方、山口県では見島ジーコンボ123号墳のみに中空耳環の出土が知られるなど西日本の中でも分布の偏在性が指摘できる。また、東日本では東海甲信、関東、東北南部地域の各県でそれぞれ数例は確認されているようである。(第4表)

このような中で、島根県内の中空耳環の出土遺跡 数や出土点数は、福岡、奈良、香川、群馬に続く点 数が出土しており全国的に見ても上位に位置づけら れそうである。⁽³⁾

島根県内の中空耳環分布状況は、①隠岐郡知夫村の高津久2号横穴墓のほか、②中海・日本海に臨む海浜部に築造された福浦法田峠2号墳(松江市美保関町)、小汐手B-2号横穴墓(安来市)がいわゆる「海を臨む古墳(横穴墓)」であることに特徴がある。この中には、鳥取県で唯一の中空耳環が出土している大冶谷C-8号横穴墓(米子市)例も包括して考えることができよう。

それに対して、③出雲平野周辺では、12基の古墳・ 横穴墓で中空耳環が出土している。さらに神戸川中 流の谷川遺跡(飯南町八神)で出土している中空耳 環も、神戸川水系を通じての流通が考えられ、出雲 平野起源のものとして捉えることができよう。

①・②の地域では、水上交通を司る海洋民の交易 ルートを介して中空耳環を入手した可能性があるの に対して、③の出雲平野周辺の状況は明らかに様相 を異にしている。

出雲西部地域に対して、古墳時代後期~終末期に

出雲全域の統括に成功したとされる出雲東部(意宇郡・島根郡)の有力首長層が築造した古墳・横穴墓においては、出雲平野を上回る数量の耳環が出土しているが、中空耳環は②の海浜部の事例が知られるだけである。(4)

出雲平野の中で、中空耳環が集中的に出土している今市・塩冶古墳群や上塩冶横穴墓群の立地する地域では、中空耳環ばかりでなく、金糸(上塩冶横穴墓群21支群10号横穴墓、22支群9号横穴墓)、金製指輪(同22支群9号横穴墓)、金を溶解した坩堝(三田谷I遺跡)、金箔剥片(上塩冶横穴墓群40支群29号横穴墓)、金銅製歩揺(上塩冶横穴墓群40支群26号横穴墓)など、特異な金銀製品等が集中的に出土している。

このような状況から類推される可能性として、中空耳環や金銀銅などの非鉄金属を加工できる金工技術者達の存在と、製作地がこの近隣(上塩冶付近)に所在した可能性を指摘できる。このような金工集団を出雲西部地域の豪族が自前で抱えているのか、あるいは畿内の特定の豪族などから一時的に工人派遣を受けて出雲平野で金工製品を製作しているのか判断しかねるが、一時的にでも当地にて金工品製作が行われていた蓋然性は高いものと思われる。

4. 高津久横穴墓群から出土した耳環の意義

高津久2号横穴墓から出土した中空耳環については、同種の中空耳環が出土している福浦法田峠2号墳(松江市美保関町)、小汐手B-2号横穴墓(安来市)にみられるような中海、日本海を介した海洋集団間の交易により入手した可能性が考えられるほか、畿内(須恵器、土師器)や九州北部(メノウ製丸玉)に由来する遺物が見られる点から、これらの地域から招来されたものである可能性も残る。いずれにせよ遠隔地からの交易活動あるいは政治的配布によって隠岐島前にもたらされたものであることに変わりはないであろう。

なお、山口県萩市沖の日本海に浮かぶ見島に所在 する見島ジーコンボ古墳群内の123号墳(7世紀後 半)からは、山口県内で唯一、中空耳環が出土して いる(2017横山)。見島ジーコンボ古墳群は、その立地や7世紀後半~10世紀初頭という古墳築造期間の長さ、また武器類、装身具類、銅銭など一離島としては異様なほど質量ともに豊富な副葬品が見られる点で特筆される。当古墳群は、対新羅監視などの任務に当たるために畿内王権の施策により、見島に駐屯した軍事官僚層等が被葬者とみられている(下向井2008、横山2012)。日本海西部域の離島防衛・監視という面で、畿内王権から重要な位置付けを付与されたという点では、隠岐と見島は相通じる部分があり、中空耳環がもたらされる時代的背景が見え隠れする。

また、高津久横穴墓群から出土している中実・中空耳環は、出雲地域の諸横穴墓群から出土しているものと比較すると、外径サイズ2.5cm以下と小さいものが多い。松江・安来市域の横穴墓が6世紀後半から7世紀初頭に造墓されるものが多い中で、外径サイズ2.5~3.5cmの耳環を多く含むという点から見れば、耳環の外径の大小差は6世紀後半と7世紀の時期差とみることができよう(辻村1997)。

5. 中空耳環の性格付け

小池寛氏は、はじめて中空耳環を集成し、その意義付けを行っているが、その中で「・・・民間的伝播とともに、一つの流通経路で多元的に供給されたと考えるのが妥当である」として、通有の中実耳環とは異なる政治的性格を指摘する。辻村純代氏もまた素材・技術の管理規制の面から小池氏の意見を支持している。一方、西山めぐみ氏は、素材・技術面で中空・中実耳環の差異はあまりなく、地域性による差異を指摘する。

中空耳環の初源期は、6世紀後半(TK43)頃と みられる。当該期に中空耳環が出土する古墳として は、風返稲荷山古墳(茨城県)、綿貫観音山古墳、観 音塚古墳(群馬県)、三条塚古墳、城山1号墳、上 総金鈴塚古墳(以上千葉県)、中田1号横穴墓(福 島県)、上塩冶築山古墳(島根県)、朝日天神山1号 墳(大分県)など各地の有力首長墓があげられる。と くに東日本では後代の「国造」に連なることが想定 されている有力首長墓に副葬される傾向があること から、出現期の中空耳環については政治的威信財と しての性格を認めることができよう。

さて一方、出雲平野の中空耳環の偏在的分布は、出雲西部の豪族層と畿内地域などの特定豪族(配下の金工工人)との繋がりを示す豪族ネットワークの一端を表すものと考えられる。出雲西部における中空耳環の導入は、半分古墳(6世紀中葉)、上塩冶築山古墳(6世紀後葉)などの首長墓クラスの古墳であることから、この時期には政治的威信財としての性格が認められる。しかし、6世紀末以降になると中小規模の古墳や横穴墓群での出土例が普遍化している。中空耳環の価値が急速に陳腐化し、通例の中実耳環と同列で差異のない存在に変容していることがうかがわれるのである。

また、蘇我氏との親密性が指摘される出雲東部の 有力古墳や横穴墓群では中空耳環がほとんど出土し ないことから、蘇我氏系の工人や技術は関与してい ない可能性が想起される。蘇我氏の氏寺である飛鳥 寺塔心礎(593年起工)から出土した29点の耳環の うち、中空耳環は0点であることもこのことを首肯 するであろう(奈文研1958、諫早2017)。(5)

このように中空耳環の性格付けを再考すれば、小池氏・辻村氏の指摘する「下賜」を前提とした政治的性格(威信財)は6世紀後葉段階の一時的なものであり、7世紀代には西山氏の想定するように、畿内や各地に存在する中空耳環の製作技術を持つ金工工房・工人を擁する特定豪族層からの供与ルートによって、通例の中実耳環と同等の価値をもって流通したものと考えられる。

6. ま と め

高津久横穴墓群から出土した中空耳環について冗長に述べてきた。この耳環の入手経路について、断定的なことはいえないが、出雲東部の意宇郡中枢との交流(後の律令制下の山陰道経由)によってではなく、中海沿岸の海洋民を介して畿内、九州などから持ち込まれた可能性は指摘できる。

金属製品の中でも往々にして見過ごされがちな地

味な「耳環」という考古資料ではあるが、7世紀前 葉~中葉の隠岐島前と本土との交易流通を考える上 で重要な情報を提供してくれるのである。

(岩橋孝典)

註

- (1) X線透過撮影は一部の玉類と共に2015年10月23日に 島根県立古代出雲歴史博物館で実施した。機器の操 作等については同館の澤田正明氏に協力を頂いた。
- (2) 耳環についての考古学的論考は、近藤1966、菅谷 1976、小池1987、松本1991、有井1995、桐原1998な どがある。

一方、分析科学からの研究は、村上1991・1997・2002、渡辺1997・2012などがある。20世紀末には考古学的立場から分析科学の成果を取り込んだ辻村1997、西山2000があり、耳環研究に新展開がみられた。その後、耳環に対する研究は低調となっているが、飛鳥寺塔心礎出土耳環の再整理作業など個別の調査で重要な成果が報告されている(諫早・降幡2017)。

(3)発掘調査報告書に耳環の報告がなされる場合、実測図、寸法計測、外観の所見までは通例行われる。ただし、ここまでの情報では耳環が中空なのか中実なのか読者には判断できない。X線撮影による内部状況の判断が示される場合は明確であるが、それが叶わない場合でも重量計測が実施してあれば中空・中実の判定に有意である。外径3cm前後の中空耳環であれば重量は10g以下であることが多い。これは同じサイズの中実耳環の1/3前後であることから一定程度有効な判定材料となる。

報告書中の耳環の取り扱いの差異は軽重様々であり、報告書による中空耳環の確認作業は容易ではない。第4表は精度の粗いものであるので今後各地域で中空耳環の集成が進むことを願うばかりである。

(4) 安来市の鷺の湯病院跡横穴墓からは、国内に類例の無い太環式中空耳環が出土している。これは中空の環体端部に蓋をしないものである。この横穴墓から出土している金銅製歩揺付空玉などと併せ、新羅・皇南大塚北墳、皇吾洞古墳出土品に類似することから新羅系とみられている。新羅において太環式中空耳環や金銅製歩揺付空玉の盛期が5世紀中葉~6世

紀中葉前後であり、新納IV式(550年前後)の単鳳環頭大刀(百済系)が伴うことから6世紀中葉を大きく降らない時期のものと考えられる(松尾2001、鄭2004)。

(5) 出雲東部の在地豪族(のちの出雲臣氏)と中央豪族の蘇我氏、出雲西部の在地豪族(のちの神門臣氏)と中央大伴造の物部氏という両者の強い関連性はかねてより指摘があるが、丹羽野・平石2015で平易に論述されている。

奈良県内では、物部氏、紀氏、葛城地域の渡来系 氏族(忍海氏、朝妻氏など)が被葬者と考えられる 古墳から中空耳環が出土している反面(第2表)、蘇 我氏の中空耳環への関与は希薄であるように見える。 高津久横穴墓群の中空耳環について、中央豪族から の下賜と考える場合には蘇我氏系以外のルートで入 手した可能性が考えられる。

また、出雲西部の今市・塩冶古墳群周辺での中空 耳環の集中現象は、中央「大伴造」の物部氏との関係 性で説明が出来そうである。平石充氏によって「出 雲国大税賑給歴名帳」(天平十一(739)年)等の文 献史料から出雲西部の物部氏系氏族の濃密な分布状 況が示されており(平石2004・2005)、大谷晃二氏、 松尾充晶氏による装飾付大刀研究では、中央豪族・ 地方豪族の所持する大刀型式の直接的な比較検討が 不十分な状況を鑑みながら、抑制的ではあるが出雲 西部出土の装飾付大刀を中央大伴造・物部氏との関 係で捉えている(大谷1999、松尾2005)。

半分古墳・上塩冶築山古墳など出雲西部の首長墳 からの出土は、政治的威信財として中央の物部氏か ら各地の擬制的同族関係等を持つ氏族長への配布の 一環とみることができる。

特に、須恵器編年出雲2期~3期古に位置付けられる半分古墳(前方後円墳、全長は大念寺古墳の1/2の45.7m)での出土例は、中空耳環の出現期のものであり注目される。ほぼ同時期に築造された広域首長墳である今市大念寺古墳(前方後円墳、91m)では、江戸時代に横穴式石室が開口した際の記録として「洞中細見之図」(天保4年模写)が描かれる。これには図入りで出土品の一群中に金環2点(現在は不

明)が描かれており、その内容が気に掛かるところではある。

また、その後も上塩冶地域を中心に中小古墳・横 穴墓群での中空耳環の副葬が連続的に見られること から、製品自体の中央からの下賜・配布・流通のほ かに、中央から金工工人の派遣・招聘によって、出 雲在地での中空耳環製作の可能性も視野に入れて検 討すべきであろう。

参考文献

- 有井宏子 1995「耳環の出土状況」『摂河泉文化資料』第 44号 摂河泉文庫
- 諫早直人•降幡順子 2017「飛鳥寺塔心礎出土耳環」 『奈良文化財研究所紀要 2017』奈良文化財研究所
- 上山晶子 2016「出雲・石見地域における古墳時代後期 の錫・鉛製環状製品に関する一考察」『島根考古学会 誌』第33集 島根考古学会
- 内田律雄・曳野律夫・松本岩雄 2019「出雲市上塩冶町 半分古墳測量報告」『島根考古学会誌』第36集
- 大谷晃二 1999「上塩冶築山古墳をめぐる諸問題」『上 塩冶築山古墳の研究』島根県古代文化センター
- 桐原 健 1998「科野にみる金環出土古墳のあり方」 『國學院大學古学資料館紀要』第14輯 國學院大學考 古学資料館
- 近藤義郎 1966「農民と耳飾り」『考古学研究』第13巻 第1号 考古学研究会
- 菅谷文則 1976「古墳時代の耳環について-とくに金環を中心として-」『古代国家の形成と展開』大阪歴史 学会編 吉川弘文館
- 下向井龍彦 2008「第十編長門・周防地域と東アジア第四集 対外緊長と周防・長門地方」『山口県史』通史編 原始・古代 山口県
- 辻村純代 1997「耳環考」『古文化談叢』第39集 九州 古文化研究会
- 鄭 聖喜 2004「王たちの装い」『黄金の国・新羅-王 陵の至宝』奈良国立博物館・韓国国立慶州博物館

- 奈良国立文化財研究所 1958 『飛鳥寺発掘調査報告書』 西尾克己・岩橋孝典・井谷朋子 2019 「隠岐郡知夫村・ 高津久横穴墓群について (報告編)」『古代文化研究』 第27集 島根県古代文化センター
- 西山めぐみ 2000「古墳時代耳環考-福岡平野出土耳環の 材質・製作技法について-」『古文化談叢』第44集 九 州古文化研究会
- 丹羽野裕・平石充ほか 2015「古墳時代の松江-出雲世 界形成の起源-」『松江市史 通史編1自然環境・原 始・古代』松江市
- 平石 充 2004「出雲西部地域の権力構造と物部氏」 『古代文化研究』第12号 島根県古代文化センター
- 平石 充 2005「文献からみた装飾付大刀の機能とその 分布」『装飾付大刀と後期古墳』島根県古代文化セン ター・島根県埋蔵文化財調査センター
- 松尾充晶 2001「第6章装飾付大刀の評価と諸問題」 『かわらけ谷横穴墓の研究』島根県埋蔵文化財調査センター・島根県古代文化センター
- 松尾充晶 2005「出雲地域の装飾付大刀と後期古墳」 『装飾付大刀と後期古墳』島根県古代文化センター・ 島根県埋蔵文化財調査センター
- 松本百合子 1991「耳環」『古墳時代の研究 8 古墳Ⅱ 副葬品』雄山閣
- 村上 隆 1994「島根県安来市大原1号横穴出土の耳環 の材質と構造」『臼コクリ遺跡・大原遺跡』島根県教 育委員会
- 村上 隆 1991「高川古墳群出土の耳環の構造と材質に ついて」『高川古墳群』兵庫県教育委員会
- 村上 隆 1997「古墳時代の金工品に用いられた金属材料と製作技術」『日本の美術』No.371 至文堂
- 村上 隆 2002「古墳時代の金・銀耳環の材質と製作技 術をめぐる考察」『奈良文化財研究所紀要2002』独立 行政法人 文化財研究所 奈良文化財研究所
- 渡辺智恵美 1997「耳環小考-製作技法、材質からみた 分類-」『創立三十周年記念誌』元興寺文化財研究所
- 渡辺智恵美 2012「一須賀古墳群出土耳環の自然科学的 調査」『大阪府立近つ飛鳥博物館館報』16 大阪府立 近つ飛鳥博物館
- 横山成己 2012「見島ジーコンボ古墳群「俘囚墓説」小

考」『やまぐち学の構築』第8巻 山口大学研究推進 体「やまぐち学」構築プロジェクト

横山成己 2017『見島ジーコンボ古墳群 第123号墳・ 第152号墳(再)・西部域出土資料報告』山口大学埋 蔵文化財資料館

第3章 文字資料からみた古代の知夫里島

知夫里島は大宝令制下では隠伎国智夫(知夫)郡 を構成する一島である。報告編で触れたように、郡 の地名が残ることから智夫郡家が置かれたと考えら れ、郡の中心的な島である。

高津久横穴墓群で埋葬行為がおこなわれた時期には、知夫里島をはじめ隠岐諸島から中央の宮都にさまざまな海産物が貢進されていたことが宮都遺跡出土の荷札木簡から知られ、当時の貢納物や氏族分布を知ることができる(吉松2019a)。また奈良時代以降に作成された文献資料から隠岐の有力氏族を抽出することで、中央との関係を検討することも可能である。本章では知夫里島関係の文字資料を整理し、特に氏族間関係から本島の歴史的位置づけを探り、高津久横穴墓群に対する評価の便に供したい。

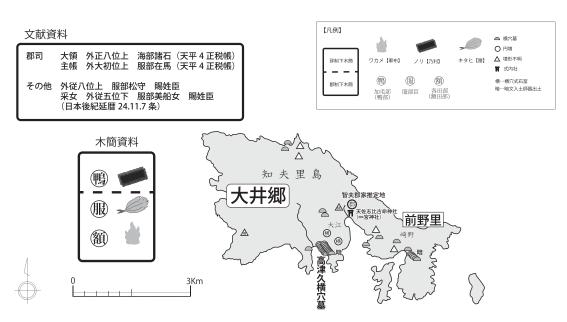
1. 知夫里島に関わる古代の文字資料

宮都遺跡出土の隠伎国関係荷札木簡は、現在のと

ころ130点確認され、そのうち智夫郡のものは16点である(市2015)。このうちサトの名が「大結五十戸」「大結郷」「大井郷」と記された3点について、知夫里島にある字「大江」が、それらのサト名の遺称地と推測されることから(日野1997・佐藤1997)、これらが知夫里島から宮都に運ばれた荷札木簡であると考えられる(以下、サト名は便宜上「大井郷」と総称する)。

「五十戸」と記された木簡と国郡郷表記の木簡があることから、遅くとも「里」表記に切り替わる天武朝末年までには、知夫里島を中心としたサトの編成が行われ、少なくとも天平十二年(740)頃まで大井郷は存続していたようである。しかし『倭名類聚抄』郡郷名記載部分の隠岐国知夫郡に大井郷はみえないため、奈良時代後半以降のいずれかの時点で、知夫里島の課役負担者は智夫郡のほかの郷(西ノ島に所在したと思われる宇良・由良・美多)に所属する形で再編成されたと思われる。

第7図に示したように、大井郷からの貢納物は「乃利」(ノリ)・「□腊」(干物)・「軍布」(ワカメ)であるが、いずれも隠岐の他の島々からの貢納物としてみえ、本島特有の産品ではない。貢納者名は「加毛部」「服部臣」「各田部」とある。加毛部(鴨部)は島前島後あわせて6点の荷札木簡で確認でき、隠岐では広く分布している氏族の一である。



第7図 知夫里島の古墳・横穴墓と智夫郡大井郷関係文字資料(吉松2019aを加工し作成)

服部は島後では周吉郡にもみえるが、島前では本郷のみである。そして姓臣である点が特異で、隠伎国関係荷札木簡では唯一の例である。これについてはすでに平石充氏が本土の出雲地域の出雲臣との関係を指摘しており(平石2010)、知夫里島における有力氏族と推察される。各田部(額田部)についてはほかにもう1例、智夫郡宇良郷の木簡にもみえる(『平城京木簡』3-5724)。本土に近い智夫郡でのみ額田部が確認されること、出雲地域に額田部が広く分布していること(桃崎2019、吉松2019b)を念頭におくと、服部臣同様、額田部も出雲地域との関係で捉えるべきものと思われる。

続いて「隠伎国正税帳」には、天平四年(732) 時点の智夫郡の郡司の署名があり、大領が「海部諸石」、主帳が「服部在馬」である(『大日本古文書編年文書』一455)。ここでは無姓であるが服部氏がみえ、やはり智夫郡の有力者であったことが確認できる。

また『日本後紀』延暦二十四年(805)十一月壬 申条に「隠伎国人外従八位上服部松守・采女外従五 位下服部美船女等三人賜_姓臣_。」という記事があ る。無姓の3人の服部氏に臣姓を賜与したというも のである。隠伎国とのみあり郡郷名が記されていな いが、采女がみえる点は重要で、采女が郡司の親族 の女性から貢進される⁽¹⁾こと、既述の木簡・正税 帳の記載を踏まえると、彼らは智夫郡大井郷在住・ 出身者の可能性が高く、また智夫郡からの采女の貢 進も奈良時代からおこなわれていたのではないかと 推測される。

2. 古代における服部氏の性格と山陰地域

知夫里島に関わる古代文字資料を瞥見したところ、 服部氏が有力氏族として浮かび上がってきた。では 服部氏とはどのような氏族であったのだろうか。

平安時代初期の畿内氏族を登載した『新撰姓氏録』によると、大和国神別に「服部連 天御中主命十一世孫天御桙命之後也。」とみえ、また摂津国神別には「服部連 熯之速日命十二世孫麻羅宿禰之後也。 允恭天皇御世、任二織部司、 送二領諸国織部。 因 號-服部連-。」とある。

まず大和国の服部連について、天御桙命は正史にはみえない神である。天御中主命は『古事記』・『日本書紀』(以下記・紀)において天地初発時の神として登場するが後裔氏族はみえない。ただし、『続日本紀』に「中臣遠祖」(天応元年(781)七月癸酉条)としてみえ、また『日本三代実録』では子部氏が「其先、天御中主尊之後也」(貞観十六年(874)十二月二十五日条)と記されている。子部氏は大王に近侍した少年を統括した小子部氏を継承する氏族である。

『新撰姓氏録』ではほかに同じ大和国神別の御手 代首氏のみが天御中主命を祖神としており、その十 世孫「天諸神命之後」と記されている。御手代とは、 天皇の代理として御幣を持ち神事を行う者のことで あり、御手代首は彼らを統括する伴造氏族であった と推察される。

このように、天御中主命は中臣氏をはじめとして 大王・天皇周辺に近侍したりその神事にかかわった りする集団が祖とあおぐ神であった。よって大和国 の服部連も同祖関係にあるこれらの氏族とともに、 大王・天皇にかかわる諸祭祀に従事していたと考え られる。

さらに天御桙命については、平安時代末期の資料であるが、嘉応二年(1170)九月二十九日に大神部神服部連公道尚と少神部神服連公俊正が提出した「神服織機殿神部等解」(『神宮雑例集 二』(神道大系 神宮編2))に「以二神部等遠祖天御桙命」為」司。」とある。この時期の伊勢では、天御桙命は伊勢の神服連氏の祖と認識されていたようである。本神については関連資料が僅少なためこれ以上の追究が難しい(2)が、大和の服部氏と伊勢の神服氏の同祖関係を想定することも可能かもしれない。

次に摂津国の服部連について、熯之速日命は記・ 紀神話ではイザナキがカグッチを斬った時に生まれ た神、またアマテラスとスサノオの天安河での誓約 のさいにスサノオ側から生まれた神としてみえる。 『新撰姓氏録』では河内国神別の服連も「熯之速日 命之後也」とされており、摂津と河内の服(部)連 は同祖関係にあった。ただ、熯之速日命の後裔氏族 はほかに確認できない。麻羅宿禰もほかに確認でき ず詳細は不明である。なお『出雲国風土記』大原郡 斐伊郷条には、斐伊の地名の由来として通(樋)速 日子命が登場する。

摂津国の服部連は、允恭朝に織部司に任じられ、 諸国の織部を統括したことで服部連を称したと記さ れているが、「織部司」は令制を遡らせた潤色であ ろう。

織部については、『日本書紀』応神天皇二十二年 九月庚寅条の吉備臣祖御友別の子弟への吉備国の分 与記事に、織部を兄媛(御友別の妹)に賜うとある。 『和名類聚抄』によると、備前・備中・備後国に服 部郷・服織郷が確認でき、本条は地方織部の設置伝 承と捉えることができる。志田諄一氏はこれら地方 織部(服部)を統括していたのが中央の服部連であ り、伊勢の神服氏との関係については、最初は服部 が設定され朝廷祭祀のために繊維製品を貢納してい たが、欽明朝頃の伊勢神宮強化にともない、あらた に神服部がおかれ伊勢神宮用の繊維製品の貢納を担っ たと解している(志田1962)。

一方、中央の服部氏に関しては、『播磨国風土記』 讃容郡弥加都岐原条に注目すべき記事がみえる。

弥加都岐原。難波高津宮天皇之世、伯耆加具漏・ 因幡邑由胡二人、大驕无、節、以_清酒_洗_手 足_。於、是、朝庭、以、為、過、度、遺_狭井連佐 夜_、召_此二人_。爾時、佐夜、仍悉禁_二人之 族_参赴之時、屢清水中、酷拷之。中有_女二 人_、玉纏_手足_。於、是、佐夜怪問之、答曰、 「吾此、服部弥蘇連、娶」因幡国造阿良佐加比 売_生子、字奈比売・久波比売」。爾時、佐夜驚 之、此是、執政大臣之女、即還送之。所、送之 処、即号」見置山一、所、溺之処、即号」美加都岐 原一。

仁徳天皇の時代、伯耆の加具漏と因幡の邑由胡の 二人が節操なく驕っていたため、朝廷が狭井連佐夜 を派遣して二人の一族を拷問した。その際、手足に 玉を巻いた二人の女がいたので不審に思い問うたと ころ、二人は「私は服部弥蘇連が因幡国造阿良佐加 比売を妻として生んだ子、宇奈比売・久波比売である」と答えた。佐夜は驚いて、これは執政大臣の娘だとして本国に還し送ったという。

執政大臣の語は『続日本紀』和銅二年(709)五 月壬午条の右大臣藤原不比等の言にみえ、新羅国使は、昔から朝廷に参上しても「執政大臣」と談話することはなかったという。ここでいう執政大臣とは特別職・名誉職的な大臣ではなく、実際の政務を行う大臣という意味であろう。

一方で仁徳朝において服部弥蘇連が大臣であったという記録は記・紀をはじめと諸史料にはみえない。ではこの伝承をどのように捉えるべきであろうか。ここで、服部弥蘇連が因幡国造一族との間に子をもうけていることをふまえ、諸国の服部氏の分布状況を確認しよう。

古代文献から知られる全国の服部氏の分布状況は、 志田氏がまとめている(志田1962)。氏によると、 服部氏の分布は畿内と東山・北陸道のほか、東海道 諸国に集中するが、これは伊勢神宮に近接している ためだという。そして、服部氏の分布する諸国は大 体が『延喜式』において絹・白絹を産する国々だと する。

確かに、『延喜式』主計 6 調絹絁条や斎宮78調庸 雑物条の絹・絁貢進国と服部氏の分布を見比べると、 一致する国がほとんどである。しかし、隠岐国だけ は絹・絁の貢進は規定されておらず異例である。宮 都出土の隠岐国からの荷札木簡においても品目はす べて海産物であり、正倉院伝来品などをみても、隠 岐国から繊維製品が貢納されていたことを示す資料 は皆無である。絹製品の貢納と服部氏は隠岐におい ては結びつかない。

さて、全国各地の古代遺跡から出土した木簡にも 服部氏の存在を示すものが散見され、上記の分布状 況を補完することができる。このうち居住国が判明 するのは伊賀、伊勢、遠江、上総(安房)、近江、 美濃、陸奥、越前、但馬、因幡、隠伎、美作、阿波 などである⁽³⁾。服部氏の分布は木簡においても東国 の国々が散見されるが、一方で山陰道諸国も多くみ られることが注目される。さらに隠伎については4 点確認でき、国別の服部氏関係木簡出土数は全国最 多である。

このように、古代の服部氏の分布は確かに東国で多く認められるできるものの、山陰道諸国の古代史料でも確認でき(4)、特に隠伎は服部氏が集中している。東国の服部氏が、志田氏の言う通り地理的状況から伊勢神宮との関係を背景に設定された可能性は高いであろうが、西日本、特に伊勢から遠く離れた山陰道諸国の服部氏に関しては別の目的を考える必要があるだろう。

その際に参考になるのが先に挙げた『播磨国風土記』の伝承である。服部弥蘇連と因幡国造一族との姻戚関係を語る本伝承は、大化前代における中央の服部氏と山陰勢力との交通関係を想起させる。

ただ、古代の服部氏の朝廷における地位は決して高くない。『続日本紀』文武天皇二年(698)九月朔条において、服部連佐射が氏上、服部連功子が氏助に認定されているが、佐射の冠位は進広肆(大宝令制でいう少初位下相当)で、功子は無冠である。

そして記・紀に服部氏に関する氏族伝承がほとんどみえないことと合わせて考えると、『播磨国風土記』の服部弥蘇連を執政大臣とする伝承はかなり差し引いて捉える必要がある。拷問した女が実は身分の高かったという話のオチとして、「執政大臣」という令制職名ではない抽象的な語が使われたと解釈すべきであろう。

それでも本伝承が地名起源として語られ成り立ったのは、中央の服部氏と因幡地域の有力豪族層との間で通交関係が実際に存在していたためと考えられる。そしてそれは註4で示した通り、因幡にかかわる服部氏関係史料が数多く確認できることからも裏付けられる。

こうした状況を参考にすると、辺縁の隠伎における服部の分布も、繊維製品の貢納基盤として設定されたのではなく、一定の政治的通交関係に基づくものであった可能性があろう。周知の通り、隠伎にはさまざまな部民が割拠しており(吉松2019a)、6世紀以降中央氏族との間で盛んな通交関係があったと推測されている。中には記・紀にはほとんど姿を

みせない氏族・部民も多い。隠伎をはじめとする山 陰道諸国へ、中央の大小さまざまな勢力が地方豪族 との連繋を目的に進出していったことをうかがわせ る。

特に知夫里島の服部氏は、のちに郡司となる有力 豪族であり、先述の通り出雲地域最有力首長出雲臣 と同じ臣の姓をもつ。中央の服部氏は因幡や隠伎知 夫里島の特に有力豪族層と積極的に関係を構築し、 部民を設定していったと考えられる。

3. 知夫里島と王権

最後に知夫里島の特殊性を王権との関係から考えてみたい。先述の通り、服部氏は隠岐国采女として平安時代初頭の記事にみえることから、おそらく奈良時代から采女を貢進する氏族であったと思われる。養老軍防令38兵衛条では、一国のうち1/3の郡が采女を、采女を貢進しない2/3は兵衛を貢進するよう定められ、『令義解』同条によると国内の郡が等分できない場合は兵衛の方を多く貢進させることになっていた。隠伎国は四郡であるので、一郡が采女貢進郡であり、それは智夫郡であったと思われる。そして智夫郡のうち知夫里島の大井郷に本拠をもつ服部氏がその役を担っていた。

采女とは、大王・天皇の食膳奉仕や王権神事などに従事する地方出身女性であり、大王と地方豪族との奉事関係の一形態である(仁藤2012・伊集院2016)。いつから知夫里島の有力豪族層の一族が采女として貢進されたかは不明であるが、その背景には知夫里島と本土(出雲地域)との密接な関係があったのではないだろうか。それは知夫里島の服部氏が隠伎で唯一臣姓をもち、出雲臣ら出雲の有力首長層と姓が共通すること、出雲地域に濃厚な分布を示す額田部が存在すること、島前地域の出入口としての役割を果たしていたであろう(5)ことなどから推測される。

その地理的環境から、早くから本土出雲地域と密接な関係を取り結んだ知夫里島の首長は、辺縁の離島の小勢力でありながら、服部氏との交通関係や采女貢進など、大王・天皇と比較的近しい位置を獲得することができた。知夫里島は隠伎を代表する地域

として朝廷において認識されていたのではないだろうか。

(吉松大志)

註

- (1)養老後宮職員令18氏女采女条。ただし本条文では 貢進条件は「少領以上」だが、服部氏は天平四年時 点では主帳である。
- (2)「伊豆宿禰系図」(静嘉堂文庫所蔵)には伊豆国造の祖の一として「天御桙命」がみえる(『静岡県史 資料編4 古代』静岡県、1989)。
- (3) 奈良文化財研究所木簡データベース「木簡庫」(http://mokkanko.nabunken.go.jp/ja/)の検索結果を利用した。
- (4) 因幡国には法美郡に服部郷・服部神社が確認できる(『和名類聚抄』・『延喜式』神名下) ほか、高草郡の東大寺領高庭庄の坪付帳に「服部小丸」の治田がみえる(『大日本古文書 東南院文書』二276)。
- (5) 関和彦氏は、知夫里島の島名に関連して、『土佐日記』承平5年(935) 一月二十六日条の童女の歌「わたつみの 道触の神に 手向けする 幣の追ひ風止まず吹かなむ」にみえる「道触(ちぶり)の神」に注目し、航海の神であるこの神が本島に祀られていたであろうとする。また本島が隠岐と本土との水上交通の入口であり、字「高津久」「津上がり」周辺が上陸地であっただろうと述べている(関2018)。

参考文献

市大樹 2015「都城出土の隠岐国の荷札木簡集成」『しまねの古代文化』第22号、島根県古代文化センター 伊集院葉子 2016「采女論再考」『日本古代女官の研究』 吉川弘文館、初出2012

佐藤信 1997「古代隠伎国と木簡」『日本古代の宮都と 木簡』吉川弘文館、初出1983・86

志田諄一 1962「大化前代の織物の生産とその部について」『日本上古史研究』 6巻-8号 日本上古史研究 會

関和彦 2018「古代、隠岐島前の風土と地名」『地名と 風土』第12号 日本地名研究所

仁藤敦史 2012「トネリと采女」『古代王権と支配構造』

吉川弘文館、初出2005

日野尚志 1997「隠伎国の郷里制について」『史学研究』 217号 広島史学研究会

平石充 2010「山陰西部地域の豪族と国制の成立」『出 雲国の形成と国府成立の研究 古代山陰地域の土器 様相と領域性』島根県古代文化センター

桃崎祐輔 2019「額田部の馬具と鈴一心葉形十字文透鏡 板付轡と虎頭鈴・多角形鈴をめぐって一」『国家形成 期の首長権と地域社会構造』島根県古代文化センター 吉松大志 2019a「隠岐の古墳・横穴墓と部民」『国家形 成期の首長権と地域社会構造』島根県古代文化セン ター

吉松大志 2019b「出雲・石見・隠岐の首長権の展開と 地域社会構造」『国家形成期の首長権と地域社会構造』 島根県古代文化センター

第5章 小 結

隠岐郡知夫村に所在する高津久横穴墓群は30穴以上からなるものであり、14穴が発掘調査されている。 その内の6穴から遺物が出土しているが、特に玉類と畿内産土師器が多く副葬されていることで注目され、畿内をはじめ他地域と隠岐との交流をうかがう貴重な資料となっている。

本稿では、報告編を基に論考編として副葬品の玉類、耳環からの文化交流と隠岐国島前の氏族にかかる3本の考察を掲載した。その視点と課題を記し、 結びとする。

第1節「非出雲産玉類からみた高津久横穴墓」は、 2号穴の外来系メノウ製丸玉、10号穴の半島系碧玉 製管玉、3号穴と10号穴の滑石製勾玉を取り上げた ものである。

外来系メノウ製丸玉の製作地は不明であるが、朝鮮半島や北部九州から多く出土しており、大陸産と想定されている。隠岐への搬入について、九州経由か、朝鮮半島から直接の持ち込みかは、半島系碧玉製管玉とともに古墳時代の日本海沿岸地域の交流を考える上で今後の解明が期待される。報告編と考察編とにおいて、出土した玉類の検討から、7世紀代の知夫里島の有力氏族が畿内を始め、九州、出雲な

どの他地域と多様な交流を行っていた可能性も見えてきた。課題としては、石材の科学的分析などからの産地同定が残っている。

第2節「耳環からみた高津久横穴墓群の特質と出 雲地域の金工について」では、高津久横穴墓群から 出土した16点の耳環の内、2個体の中空耳環があり、 この遺物に着目して出雲地域の耳環との関連を探っ ている。

出雲では、中空耳環は17遺跡23点が出土しており、その分布は中海の沿海部と、出雲西部の出雲市上塩冶地域を中心とする神戸川下流域の古墳と横穴墓である。高津久2号穴の耳環は中空耳環であり、中海沿岸地域を通して搬入されたと考えられる。なお、副葬品の畿内産土師器や須恵器の中にも、中海周辺から持ち込まれた可能性のあるものも存在する。

第3節「文字資料からみた古代の知夫里島」は、 古代文献や宮都遺跡出土の木簡から知夫里島の歴史 的位置付けを探った論考である。

智夫郡の郡家は知夫里島にあったとされる高津久 横穴墓群の東側、現在の知夫村役場付近と推定され、 今も「郡」の地名が残る。また、「隠伎国正税帳」 には、智夫郡郡司の主帳に服部在馬の名前がみえる。 さらに、知夫里島に比定される智夫郡大井郷の木簡 にも「服部」の名が認められる。この服部氏は平安 時代初めに臣姓を賜与され、釆女も出した有力豪族 と考えられている。この服部氏の政治的背景には、 本島は本土に近く、隠岐の入口としての地理的環境 を基にした中央政権や出雲の豪族との強い連帯が推 定される。今後、文献史学の研究成果も踏まえ、知 夫里島の横穴式石室を持つ古墳や横穴墓の様相を網 羅的に把握し、隠岐島前での古墳時代の社会構造を 復元することが重要な課題といえる。

島根県古代文化センターでは、令和2年度から「隠岐島の古代文化」をテーマとする研究が企画されていると聞く。今後、高津久横穴墓群にかかる考古学や古代史学からの研究がさらに深化し、隠岐の古墳・横穴墓の解明が進む一助となることを願って擱筆したい。

(西尾克己)